Kita-re
北近畿地域連携センター

平成28年度

「福知山公立大学開学記念連続講演会」報告書

地域のための福知山公立大学に期待するもの

～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama
北近畿地域連携センター

〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
TEL.0773-24-7151 FAX.0773-24-7170
Mail:regional@fukuchiyama.ac.jp
http://www.fukuchiyama.ac.jp

福知山公立大学開学記念連続講演会
地域のための福知山公立大学に期待するもの～福知山公立大学を使いこなすために～
報　告　書

目　次

１．はじめに ……2

２．開学記念連続講演会の開催趣旨と概要について ……3

３．開学記念連続講演会

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 福知山市
「地方創生時代における地方公立大学の役割」 ……4

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 与謝野町
「デザインマネジメントによるまちづくり
～みえるまちをつくる～」 ……14

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 宮津市
「神山発！日本の田舎をステキに変える
～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」 ……23

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 伊根町
「東北が取り組んでいる新しい農林水産業
～「東の食の会」の事例紹介～」 ……32

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 綾部市
「都市農村交流から移住・定住へ」 ……42

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 舞鶴市
「クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性」 ……51

◇福知山公立大学開学記念連続講演会 in 京丹後市 ……61
「地域資源は足元に埋まっている」

３．アンケート集計結果 ……70

はじめに

本学は「市民の大学、地域のための大学、世界と共に歩む大学」を基本理念に掲げて、平成 28 年 4 月に開学しました。とりわけ、地域の皆様からのご支援・ご協力により、本学の運営は成り立っており、「地域のための大学」は本学が地域の皆様に果たすべき最も重要な社会的責任であります。

この理念を広く地域社会に周知し、本学が北近畿地域全体の社会的資源として有効に機能するために、「福知山公立大学開学記念連続講演会」を開催しました。

今年度は京都府北部 5 市 2 町を会場に実施し、講演会では北近畿の活性化、地方創生の実現をメインテーマに据え、それぞれの地域で関心の高い個別テーマを設定し、著名な外部講師を招聘して基調講演を行いました。また、基調講演を受け、外部講師、本学教員、有識者による鼎談（ていだん）やパネルディスカッションを実施し、闊達な意見交換をしていただくことにより、公立大学と市民生活との関係を具体的に理解していただく機会を設けました。

全 7 回の講演会で 900 人を超える来場者にお越しいただき、盛況のうちに終えることができました。

このたびの「福知山公立大学開学記念連続講演会」におきましては、関係各位のご協力のおかげで成功を収めることができましたこと、この場を借りて御礼申し上げます。今回の講演会をきっかけに、大学と地域の皆様との交流が活発になることを切望するとともに、本学も地域の大学として貢献いたしていく所存です。

福知山公立大学北近畿地域連携センター長
富野　暉一郎

【趣旨】

本学の地域連携事業の一環として、住民の生涯学習機会の充実をはかるとともに、圏域住民の本学への関心を高めることを目的に開学記念連続講演会を開催しました。平成 28 年度は、京都府北部５市２町の各自治体と連携し、全７回実施しました。各講演会の日程等については下記の表のとおりです。

本講演会では、福知山公立大学の基本理念である「地域のための大学」が地域社会に広く周知され、大学が北近畿地域全体の社会的資源として有効に機能するために、地域課題に即した課題の提起と解決に向けて求められる論点を幅広く論じることを通じて、地域における身近な大学の役割について共通の認識を形成することを目指しました。

【各講演会の日程・場所・テーマ・講師・参加者数】

	日程	場所	基調講演テーマ	講師	参加者数
第１回	９月 10 日(土)	福知山市	地方創生時代における地方公立大学の役割	片山 義博 氏 (慶應義塾大学教授)	200 人
第２回	10 月 15 日(土)	与謝野町	デザインマネジメントによるまちづくり～みえるまちをつくる～	田子 學 氏 (㈱エムテド代表取締役)	150 人
第３回	10 月 22 日(土)	宮 津 市	神山発！日本の田舎をステキに変える～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～	大南 信也 氏 (NPO 法人グリーンバレー理事長)	80 人
第４回	11 月 ５日(土)	伊 根 町	東北が取り組んでいる新しい農林水産業～「東の食の会」の事例紹介～	高橋 大就 氏 ((一社)「東の食の会」事務局代表)	60 人
第５回	11 月 26 日(土)	綾 部 市	都市農村交流から移住・定住へ	小田切 徳美 氏 (明治大学教授)	150 人
第６回	12 月 11 日(日)	舞 鶴 市	クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性	山口 直彦 氏 (商船三井客船㈱代表取締役社長)	150 人
第７回	12 月 25 日(日)	京丹後市	地域資源は足元に埋まっている	高野 誠鮮 氏 (元羽咋職員)	150 人

「地域のための福知山公立大学に期待するもの～福知山公立大学を使いこなすために～」

第1回 福知山公立大学
開学記念連続講演会in福知山

講演内容

平成28年 9月10日（土）
午後2時30分～4時20分

入場料 無料

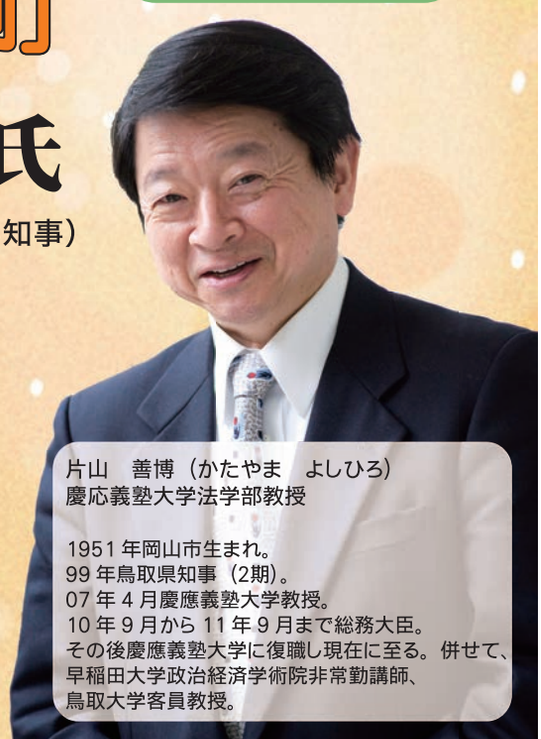
・基調講演

講演テーマ

「地方創生時代における地方公立大学の役割」

講師 片山善博氏

（慶応義塾大学教授、元総務大臣、元鳥取県知事）



片山　善博（かたやま　よしひろ）
慶応義塾大学法学部教授

1951年岡山市生まれ。
99年鳥取県知事（2期）。
07年4月慶應義塾大学教授。
10年9月から11年9月まで総務大臣。
その後慶應義塾大学に復職し現在に至る。併せて、
早稲田大学政治経済学術院非常勤講師、
鳥取大学客員教授。

・福知山公立大学開学記念鼎談（ていだん）

～片山善博氏×大橋一夫 福知山市市長
×富野暉一郎 福知山公立大学 副学長～

大橋市長

富野副学長

○共催　福知山公立大学、福知山市
○後援　京都府（申請中）
○会場　市民交流プラザふくちやま
3F『市民交流スペース』定員200名

会場案内図

福知山公立大学
The University of Fukuchiyama

○お問い合わせ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
〒620-0886　京都府福知山市字堀3370
TEL:0773-24-7151　FAX:0773-24-7170
E-mail:regional@fukuchiyama.ac.jp
http://www.fukuchiyama.ac.jp

開学記念連続講演会（福知山市）

地方創生時代における地方公立大学の役割

日時：平成２８年９月１０日

場所：市民交流プラザふくちやま

講　　演（要約）

○片山氏　　御紹介いただきました片山です。本日は当地にお邪魔する機会をつくっていただきまして、ありがとうございます。

この講座は、新たに公立大学としてスタートされた福知山公立大学が、地域に支えられ、また、地域を支えるという、互いにとっていい環境をつくるには、どうすればいいかを考えるためのものだと学長から伺いました。

私も、鳥取県知事のとき、地域の知的拠点である地元大学と地元との連携、マッチングということをずっと考えておりました。その経験も踏まえて、「地方創生時代における地方公立大学の役割」と題して、お話をしたいと思います。

１．失われつつある地域の活力を取り戻すために

地方は、今、大変な課題を抱えています。一番深刻で重要な課題は、若い人が減って、高齢化が進行していく中で、失われつつある地域の活力をどう取り戻すかです。このためには、地域での知的拠点というものが、必ず必要です。

今、多くの自治体が地方創生に力を入れておられます。日本には１，７００ほどの自治体がありますが、このままいくと、２０４０年には、そのうちの半分ぐらいの自治体が自治体としての体をなさなくなるのではないかという悲観的な見方もあります。そうした事態を避けるため、何とか踏ん張って頑張ろうじゃないかというのが、地方創生です。着眼は、間違っていませんし、重要なことです。しかし、やり始めてもう数年経ちますが、世の中が変わる気配はありません。

その背景として考えられるのは、この政策を、国が自分たちの目線でいわば中央集権的に主導し、それに自治体が従っている傾向にあることです。一例を申し上げますと、プレミアム付商品券です。１万円出したら１万２，０００円の商品券が手に入る。その地域でしか使えないから、地域の商店街が潤うんじゃないかという発想です。これを全国どこでもやった。私が住んでいる東京都の港区は、この５年間で人口が２割近く増えているのに、ここでもプレミアム付商品券をやっている。政府から、お金を出すからやれと言われて、やっているようです。

プレミアム付商品券は、地方創生の最大の目玉商品でやったんですけれども、これは鳥取県など地方のためというよりは、アベノミクスのためにやったんだということが、だんだんわかってきました。プレミアム付商品券で物を買えば、消費は伸び、ＧＤＰ（国内総生産）もふえる。しかし、消費もＧＤＰも、鳥取県のように人口が少ないところより東京都のような大都市のほうがぐっと上がるわけです。

このように国任せにしておくと、国や中央本位のものになってしまい、地域本位ということが、抜け落ちてしまいます。

２．地域本位で考えるとはどういうことか

地域の問題は、やっぱり地域本位で、真剣に自分たち自身で考えなきゃいけないということです。地域本位に考えるというのは、どういうことか。ＴＰＰを例に挙げましょう。太平洋を囲んで多くの国が経済連携をしましょうという協定です。わが国の多くの地方は、ＴＰＰに対してはあまり賛成ではありません。しかし、安倍政権が一生懸命進めてきているときに公然と反対するというのは、なかなか勇気のいることです。

ところが、アメリカ西海岸のシアトル市では、市議会挙げてＴＰＰ反対決議をしました。同市には航空機産業のボーイング社やマイクロソフト、コーヒーのスターバックスなどのグローバル企業の本社があり、ＴＰＰに加われば世界にビジネスネットワ

ークを拡大できるわけですが、それでも自治体独自で反対決議をしました。ＴＰＰには、関税をなくすこと以外に、いろんな制度を統一しましょうという発想があるため、加入すると自分たちの地域の地方自治がやりにくくなるからです。

ニューヨーク市議会や、カリフォルニア州のリッチモンドという市などもＴＰＰフリーゾーン宣言をしています。たとえ国がＴＰＰに加盟しても、うちの市は関係ないという宣言です。自治体の政策が揺らぐのではないかという懸念があるからだと思われます。

地域の問題は、自分たち本位に考えないといけないわけですが、その際、必要となってくるのが、多くの優秀な研究者や教育者がおられる、「知の拠点」としての地元の大学との連携だと思います。

３．「知の拠点」としての地元大学の役割

私は、知事をやっていたとき、大学を活用して、地域に役立ってもらいたいなと、いつも思っていました。議員の皆さんにも議会と大学との連携ということを度々促していました。活用というとぞんざいな言い方ですけれども、地域の課題を地域本位に一緒になって考えるという姿勢が大切だと思います。日本の地方の議会は、通常は自治体職員からしか意見を聞きませんが、シアトルなどアメリカの自治体は、地元大学の先生たちが議会に出向いて、市民とともに発言します。

福知山市議会は、福知山公立大学の先生を招いて議員研修会をやられたと―お聞きしましたが、結構なことだと思います。そのほかに、例えば、最近の地方自治の課題について大学の先生から話を聞いたり、具体的な議案や条例案、あるいは予算案等について、大学の先生の知見を求めたりすることがあっていいと思います。数年前、メロンで有名な北海道の夕張市が、大きな負債を負って財政破綻をしました。自治体の人間と議員の間だけだと、こういうことになりかねません。

４．地域と地元大学の良好な関係を築くために

私が鳥取県知事をやっていましたときに、鳥取環境大学ができました。当初は、公設民営で、今は県と市が共同して経営する公立大学になっていますが、この大学の理念は、地域と一体となって、地域の課題に取り組むというものです。目標は、ローカル人材の養成です。これは必ずしも鳥取だけのことを考えるという意味ではなく、卒業して他の地域に行ってもその地域のことを真剣に考えられる視点を持った人材を育てることです。もう一つは、地域が抱える課題を研究対象にして、解決手段を考えることです。

鳥取市には、もう一つ鳥取大学があります。ここも地域問題に取り組んでいます。「鳥取大学過疎プロジェクトチーム」というのがありまして、数年前に、京都の学芸出版社から『過疎地域の戦略』という本を出版しました。交通問題をはじめ、医療問題、高齢化や過疎化への対応、地域産業振興など地域の課題についての研究成果をまとめたものですが、よく読まれています。韓国など外国にも知られており、外国から呼ばれて講演に出向く先生もいるそうです。

鳥取をフィールドに、長年にわたって地震や、鳥インフルエンザの研究に携わっておられる先生がおられ、知事をしていたときには、お世話になりました。地元を研究の対象にして、地元の課題に散り組んでおられる研究者が地域にいるということは、とても心強いことです。それを、活用しない手はない。頼らない手はありません。

地域と地元の大学との間が、いい関係で結ばれると、地域もよくなり、大学もよくなります。大学の先生たちも、地域との関係の中で、メジャーな研究者になっていく。そんな将来を目指していただきたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

（以上）

講演会 講師 片山 善博 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（福知山市）

地方創生時代における地方公立大学の役割

日時：平成２８年９月１０日

場所：市民交流プラザふくちやま

鼎　　談（要約）

１．基調講演を受けて

○富野氏　　進行役を務めさせていただきます、副学長の富野です。

片山先生には、大変重要な提起をしていただきました。先生のお話を受けて、市長さんと、片山先生、そして私と三者三様の立場で議論を深めていければと思います。

まず、市長さんは、片山先生のお話をどう受けとめておられますか。

○大橋氏　　国や府からお金をもらう際、その支援策が、この地域に合っているかどうかというのをしっかり見極めないといけないと改めて感じました。福知山公立大学を北近畿、１０市４町のシンクタンクとして活用して、市政に反映をしていくことや、地域の公立大学で学んだ後、地域の中での働く場の確保が必要だと思っています。

○富野氏　　大学としては、私たちの大学は、「グローカル」でありたい。ローカル（地域）にしっかりと根づいているけれども、研究レベルではグローバル、世界にも展開できる大学でありたいと思います。

○片山氏　　市長さんが、福知山だけでなく但馬のほうまで広い地域を視野に置かれているのはいいことだと思います。富野副学長さんのお話にも同感です。地域の課題をしっかり研究し、世界の人たちにも理解できるような成果を上げる。これがまさに「グローカル」ですね。

○富野氏　　若い人たちが地方から出ていくのは全国的な傾向ですが、若者の定住について、片山先生の御意見を伺いたいと思います。

○片山氏　　５月に沖縄に行った折、一人の若者に会いました。彼は神奈川県出身の

ですが、琉球大学を出た後、沖縄で働き、結婚して住みついているんです。神奈川でも就職できたのに、なぜか。彼は、沖縄の音楽に魅せられて沖縄に住みついたそうです。つまり、沖縄という地域に若者を強力に引きつける何かがあるかということだと思います。

もう一つ、これはアメリカの例ですが、議会や教育委員会がオープンで、必ずパブリック・ヒアリングがあり、そこでは高校生でも意見が言えるんです。音楽クラブの楽器が古くなったので買ってほしいという高校生の訴えを、教育委員たちがちゃんと受けとめているのを見たことがあります。そういう地域なら自分もここで頑張ろうという気になるのではないでしょうか。

○大橋氏　　今年から、高校生たちもたくさん入ってもらい、地域を見詰め直して、この町の未来を考えるワークショップを始めました。出口の問題としては、
企業の誘致も含めて、産業振興をしっかり頑張っていかないといけないと思っています。

２．地域に対して地元大学がすべきこととは

○富野氏　　行政が自治体につくった大学として、どのようなことを地域に対してやっていくべきなのか、あるいはできるんだろうかということについて、お二人に御意見なり御提言を伺いたいと思います。

○大橋氏　　この大学が、地域全体の大学なんだと思いを持っていただくために、市民の皆さんも参加できるようなまちかどキャンパスというのを、但馬や丹波でもやっていただければと思います。

○片山氏　　私は、鳥取県知事のとき、地元の大学にささやかですが、地域研究のための研究費の枠を予算で設けました。それで地域のことに目を向けてくださる研究者が随分いました。もう一つ、これは私の提言ですが、議会で県外調査や外国調査が必要なときには、調査を地元大学の先生に依頼したらいいと思います。学者ですから、

真面目に研究され、いい成果を出されると思います。

○富野氏　　ありがとうございます。

この大学はできてまだ半年、来年には定員が１２０人に増えます。現在は５８名で、まだまだ十分力が発揮できない状態ですが、既に安い単価で講義を聴講していただいたり、議会や市とは、協力について話し合うなど動いております。また、今年度には北近畿地域連携センターの改修が完了し、ワークショップの場も誕生し、地域の皆さんとともに動いていけるようになります。

最後に、片山先生、そして大橋市長さんに、改めて感謝の拍手をお願いします。

どうもありがとうございました。

（以上）

鼎談（左から富野 暉一郎 副学長、片山 善博 氏、大橋 一夫 福知山市長）

大橋 一夫 福知山市長

第2回
与謝野町

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

地方創生 Creative×生

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 与謝野町

10月15日(土) 13:30～16:00

基調講演

デザインマネジメントによるまちづくり
～みえるまちをつくる～

講師 田子 學 氏
（株式会社エムテド代表取締役／与謝野町クリエイティブディレクター）

入場料無料
定員200名

田子 學 Manabu Tago

株式会社エムテド代表取締役
与謝野町クリエイティブディレクター

プロフィール
東京造形大学Ⅱ類デザインマネジメント卒。
広い産業分野においてコンセプトメイキングからプロダクトアウトまでを
トータルにデザインする「デザインマネジメント」で、
社会に向けた新しい価値創造を実践している。
2015年より京都府与謝野町クリエイティブディレクター。
iF PRODUCT DESIGN AWARD 2013 (GOLD)、
red dot design award best of the best 2013、他受賞作品多数。
TEDxTokyo2013 Design Speaker。

慶応義塾大学大学院 SDM 特任教授・東京造形大学デザイン学科特任教授・東京藝術大学デザイン科非常勤講師・熊本大学大学院自然科学研究科客員教授

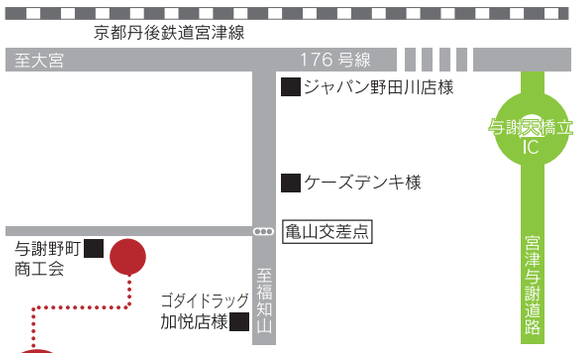
福知山公立大学開学記念鼎談（ていだん）

田子 學
クリエイティブディレクター

杉岡秀紀 × 山添藤真
福知山公立大学准教授　与謝野町長

平成15年：同志社大学経済学部卒業
平成19年：同志社大学大学院総合政策科学研究科博士前期課程　修了
京都府立大学公共政策学部　講師
地域連携センター　副センター長
京都政策研究センター　企画調整マネジャー
地域公共政策士コーディネーター

昭和56年：京都府生まれ
平成12年：京都府立宮津高等学校卒業
平成16年：フランス国立建築大学パリ・マラケ校入学
平成18年：フランス国立社会科学高等研究院パリ校入学
平成20年：フランス国立社会科学高等研究院パリ校2年次修了
平成22年：与謝野町議会議員
平成26年：与謝野町長



会場 野田川わーくぱる
京都府与謝郡与謝野町字四辻161番地　P 有り

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151　〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・与謝野町・京都北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（与謝野町）

「デザインマネジメントによるまちづくり

～みえるまちをつくる～」

日時：平成２８年１０月１５日

場所：野 田 川 わ ー く ぱ る

講　　演（要約）

○田子氏　　皆さん、こんにちは。与謝野町のクリエイティブディレクターを去年の５月からさせていただいております田子と申します。

僕は、エムテドというデザイン会社の代表をしていますが、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の特任教授などいろんな大学の教壇にも立っています。僕が取り組んでいるのは、デザインの中でも「デザイン・マネジメント」という少し特殊な分野です。

１．デザイン・マネジメントとは

デザインというと、絵か、形か、色なのかという話になりがちですが、実は全然違うんです。ちょっと前までは、デザインを辞書で調べると「意匠」と出ていましたが、新しい辞書では設計と載っていることが多いです。そして、その後に「人間の行為をよりよい形で叶えるための計画」という言葉が添えられています。

美術や芸術、アートと呼ばれるものは、一個人の情熱で動かすものですが、デザインというのは１人ではどうにもなりません。パートナーがいたり、指導してくれる人がいたり、いろんな人達と共だって、計画を作っていくことなんです。ワンピースを作るのではなく、全体の中で足りないところにワンピースを入れることによって全体が動くシステムを考える。システムとして大きく回ったとき、必ず興味を持つ人がいます。この興味が関心に繋がり、それがお金に変わる可能性もあります。これが、実は

ブランドというものなんです。

２．クリエイティブディレクターとしての与謝野町における取組み

僕が与謝野町で去年からいただいている仕事である「与謝野町のブランディング」というのは、ブランドづくりという形だけの話ではありません。どうやってこの地域を動かしていけるのか、どうやって皆さんの力を一緒に育てていけるのか、どうしたら地元の資源をいい価値に育てられるのかということを考えることが与謝野町におけるブランディングであり、その実現に向けて今一生懸命取組んでいます。

僕は、行政と仕事をするのは、あまり好きではなかったのですが、若い山添町長に会ったとき、「格好いいまちにしませんか」と言われて驚きました。彼だったら、もしかしたら変わるかもしれないと思いました。

与謝野町をつぶさに見て回り、この町の暮らしの根底にあるいいものをたくさん見つけました。海がある、大きな川がある、そして山もある。実はこれらが揃っているような地域は少ないんです。しかも住むところがいっぱいある。織物をやっていて着る物も作られている。そして、美味しい野菜、美味しい米も作っている。おまけにこの地域でとれたおからや米ぬか、魚のあらなどで肥料までつくっている。これは実にすごいトレーサビリティーの価値なんです。トレーサビリティーというのは、誰が作って、どのように運営しているかというのが見える化できるということ、つまり安心・安全が見えるという話なんです。大量生産、大量消費の現在では、作り手の顔が全く見えません。モノは安いけれども安心感がない。だからこそ、安心・安全が見えるということは、素晴らしいことです。これこそ、この町のブランドの礎となるものだと思います。

皆さん、このいいところを強調しませんか。美味しいお米や野菜の作り手の顔が、お客さんに直にわかれば、価値が高まり、高く売れるかもしれない。こんな発想から去年１１月、テストマーケットを開催しました。最初は誰が来るんだろうと、どきど

きだったんですが、蓋を開けてみたら地域全体からいろんなお客さんが来て盛況でした。

そこでふるまわれたのは有名シェフが作ったものではなくて、この町の主婦達の家庭料理です。地域を活性化するためには、ここで暮らす人達自身が、地元のいいものを積極的に多くの人に見てもらうべきだと思います。

３．「みえるまち」にするために

阿蘇海だって、そうです。ご存知のように、阿蘇海では、今でこそサップ、シーカヤックというマリンスポーツ体験事業をされていますが、僕がこの町を最初に訪れたとき、天橋立が見える素晴らしいロケーションなのに、海で遊んでいる人が誰一人いませんでした。柵がしてあって、「入るな、危険」と書いてある。せっかく素晴らしい海があるのに蓋をしてしまっているんです。

ヨーロッパでは、町並みの中に、海面すれすれの道路とかあるんですけれども、柵などはしていません。景観を損なうし、危険であることは見ればわかります。ここをいかに価値ある土地にするか、誇れる場所にするかということを考えたら、入ってはいけないなんて書いてはいけないと思うんです。

海を綺麗にして、みんなで海に入りませんかと呼びかけたら、まさにこういうことをやりたかったんですと、地域のアウトドアショップの方が手を挙げられ事業化につながろうとしています。

今、「みえるまち」というコンセプトサイトを立ち上げて、いろんな発信をしていますが、皆さんも一人一人が、自分の町の良さというのを自覚して、町を訪れた人に「どう、うちの町、いいでしょう」というふうに一言かけてもらいたいんです。

それから、時代に流されるのではなくて、今まで起きていたことは、正しかったのかということを、今一度、問い直してほしいと思います。そういう姿勢で、この与謝野町の海や山、畑、織物など地元の資源を見直していただきたいです。

そして、あらゆることをしっかりと適正に編集するならば、世界に誇れる、与謝野町のまちづくり、ものづくりが完成するんじゃないかなというふうに思っております。

御清聴ありがとうございました。

（以上）

会場の様子

開学記念連続講演会（与謝野町）

「デザインマネジメントによるまちづくり

～みえるまちをつくる～」

日時：平成２８年１０月１５日

場所：野田川わーくぱる

鼎　　談（要約）

○杉岡准教授　　本日進行を務めさせていただきます杉岡と申します。私は、昨年度から１年弱、「まち・ひと・しごと創生有識者会議」で、お手伝いをさせていただきました。また、与謝野町の新たな総合計画を策定するお手伝いも仰せつかり、与謝野町に関わっております。

１．山添町長と田子氏の出会い

○杉岡准教授　　山添藤真町長を初めて見る方もおられますので、まず、山添町長に簡単に自己紹介をしていただき、田子さんとの出会いや印象をお聞かせください。

○山添町長　　山添でございます。本日は、福知山公立大学の皆様方により、講演会を主催をしていただき、心から感謝を申し上げます。私達、与謝野町民にとりまして、福知山公立大学の新たなるスタートは、未来を感じさせるものであり、今後、大学が地域に愛され、地域に発展をもたらす機関としてあり続けることを心から願っております。

私は、現在３４歳ですが、与謝野町に帰ってきたときは、２８歳でした。当時、フランスで学業に専念しておりましたが、この地域でものづくりをされていらっしゃる方々が、新たな販路の開拓先としてヨーロッパに来られた折、通訳のお手伝いをさせていただいたのが、この地域に帰ろうと思ったきっかけでした。そのときに地域の抱える課題についての認識を深め、政治であれば、地域の皆さんの幸福に貢献できる職

業ではないかと政治の道に進みました。

田子さんには、町長に就任して２カ月余りたった２０１５年７月４日にお会いしました。この与謝野町には、お米や織物などすばらしい素材を作り得る力はあるけれども、それに付加価値をつけ、販路を開拓をしていくノウハウが乏しいのではないかと思ったのが、田子さんにコンタクトするきっかけでした。

私は、大学で建築学を学びましたが、建築というのはデザイン行為であり、田子さんが提唱しておられるデザインという定義、デザインマネジメントという役割についても非常に共感ができました。田子さんは、全幅の信頼を置ける人材であると思っております。

２．「みえるまちをつくる」とは

○杉岡准教授　　田子さんのお話の中に「格好いいまち」という話題がありましたが、田子さんが、１年半前に与謝野町に来られてから、「格好いいまち度」は何点ぐらい上がったと思われますか。

○田子氏　　何点かはわからないですけれども、１年経たずに「みえるまち」というコンセプトを作り出し、少なくとも半年ぐらいで事業化して、町を動かすための会社ができるなど非常に速いスピードで動いていることは、僕としてはすごくいいと思います。

○杉岡准教授　　田子さんの講演のタイトルに、「みえるまちをつくる」とありますが、これは誰に対してみえるまちをつくるんでしょう。町長、いかがでしょうか。

○山添町長　　第一義的には住民の皆さん方にとってみえるまちをつくっていくということだろうと思っています。第二義的には外部とのコミュニケーションによって必要になってくることでもあるのかなとも思っています。そういった意味では、町内、町外に対してみえるまちをつくっていくということが大きな方向性になるんだろうと思っています。もう一つ、自分自身にとってのみえるまちということもあるんだろう

なと思います。

○杉岡准教授　　クリエイティブディレクターとして、田子さんのお考えをはいかがでしょう。

○田子氏　　皆さんは、意外に自分の足元が見えていなかったと思います。自分達のこの土地というのを、もう一度見詰め直して、それをちゃんとみえる化すれば、おそらく自分達の地元の価値というのに気づきます。価値を与える前に自分たちの価値をちゃんと見ることによって、与える価値を正当評価してもらう。そういう順番かなと思ってます。

３．「みえるまち」の実現のために

○杉岡准教授　　このみえるまち政策を進めていくための、今一番の課題は何でしょうか。

○田子氏　　やはり、個人の意識だと思います。一人一人が、自分がこの町に対して何ができるんだろうとアクションが起こせるところまでこの町を知ることが必要で、それがわかった瞬間にいろんなことが展開して変わっていくような気がします。

○山添町長　　私も田子さんのお考えと同じで、住民自身が自分の町をより深く知る、理解するということが重要だと思います。与謝野町は、１００ｋ㎡ございますが、海地域にはツバキ、野田川地域にはツツジ、岩滝地域にはアジサイと花一つ取り上げても多様なものであります。そして、その背景には住民の皆さん方の過去からの思いの連鎖があります。

そういった一つ一つを紐解いていき、体感をしていく、こういったことを積み重ねていくことが非常に重要ではないかと思いますし、それが最終的には「みえるまち」の理解であったり、実現に向けての一歩につながっていくんだろうと思っています。

○杉岡准教授　　ありがとうございます。教育学者のジョン・デューイの言葉に「体験による学びに勝るものはない」とありますが、体感、体験をしてみないと、この

「みえるまち」の価値はわからないと思います。ありがとうございました。

（以上）

第3回
宮津市

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 宮津市

10月22日（土） 18:00～20:30

入場料無料
定員150名

基調講演

神山発！日本の田舎をステキに変える
～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～

講師 **大南信也氏**
（特定非営利活動法人グリーンバレー理事長／一般社団法人神山つなぐ公社 業務執行理事）

田舎がすてき

大南信也 Shinya Ominami

特定非営利活動法人グリーンバレー 理事長
一般社団法人神山つなぐ公社 業務執行理事

プロフィール
1953年徳島県神山町生まれ。
米国スタンフォード大学大学院修了。
1990年代初頭より神山町国際交流協会を通じて「住民主導のまちづくり」を展開。
1998年米国生まれの道路清掃プログラム「アドプト・ア・ハイウェイ」を全国に先駆けて実施するとともに、1999年「神山アーティスト・イン・レジデンス」などのアート事業を始動。
2007年神山町移住交流支援センター受託運営を開始し、2011年度には神山町史上初となる社会動態人口増を達成。
2010年10月以降ITベンチャー企業等16社のサテライトオフィスを誘致。
「創造的過疎」を持論にグローバルな視点での地域活性化を展開中。

ふるさとづくり有識者会議委員（内閣官房）、文化審議会文化政策部会委員（文化庁）、徳島大学客員教授、四国大学特認教授、東北芸術工科大学客員教授

福知山公立大学開学記念パネルディスカッション

パネリスト **大南信也氏**

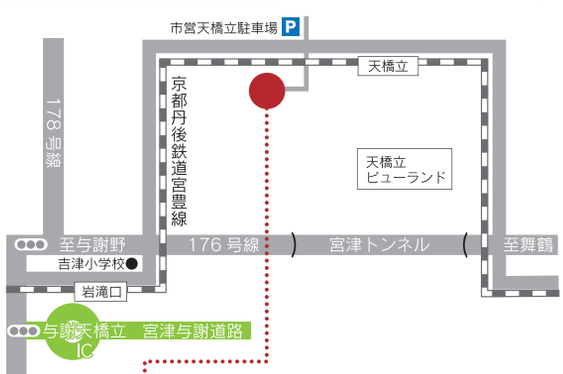
宮津の地域資源活用に取り組む方々
倉田 崇氏
天橋立文珠繁栄会
JouJou coffee and bread

もうお一方、
宮津でご活動の方を予定しています。

コーディネーター
谷口知弘
福知山公立大学教授

井上正嗣
宮津市長

谷口知弘プロフィール
1964年生まれ。
お茶どころ京都府宇治田原町出身。
1990年京都工芸繊維大学大学院修了。
デザインコンサルタントに勤務の後、京都工芸繊維大学助手、立命館大学助教授、同志社大学大学院教授、コンサルタント事務所経営を経て2016年4月より現職。太閤秀吉の伏見城下と明智光秀の福知山城下をいったり来たりの2地域居住。
2016年4月1日より福知山市民。



会場 **ホテル北野屋**
京都府宮津市文珠100
※駐車場は市営駐車場をご利用下さい。

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886 京都府福知山市字堀3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・宮津市・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（宮津市）

「神山発！日本の田舎をステキに変える

～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」

日時：平成２８年１０月２２日

場所：ホ　テ　ル　北　野　屋

講　　演（要約）

○大南氏　　皆さん、こんばんは。徳島県神山町のＮＰＯ法人グリーンバレー理事長の大南信也です。私の本業は土建屋ですが、ＮＰＯ活動の傍ら本業をやるような感じで地域づくりの活動をしてきました。自分が生まれ育った町を、もうちょっと面白い町、わくわくする町にしたいなという思いが起点でした。今、神山町は、結構面白い町になってるんじゃないかなと思いますが、今日は、グリーンバレーが生まれた経緯や、斬新な地域創生の取り組みについて紹介したいと思います。

１．地域づくりの第一歩は成功を共有できる仲間づくり

ことの始まりは、１９９０年、私の母校の神領小学校で、一体の青い目の人形を見かけたことでした。この人形は、戦前、友好親善のためアメリカから日本の幼稚園や小学校に送られてきたものですが、太平洋戦争の結果、１２，７３９体の人形のほとんどが壊されたり、焼かれたりしました。しかし、一体だけ母校で大事に保存されていた人形が残っていたので、この人形を送ってくれた人を手を尽くして調べたら、送り主がペンシルベニア州のアリス・ジョンスソンという聾学校の先生だとわかりました。

そこで、日本に嫁入りした人形を里帰りさせようということで、１９９１年の雛祭りの日に「アリス里帰り推進委員会」というのを作りました。そして、３０名の訪問団で人形を持って渡米、現地の人と交流してきました。これがきっかけで「神山町国

際交流協会」へと発展し、さらに、わくわくするまちづくりを目指す「グリーンバレー」発足へと繋がっていき、いろいろな取り組みをしてきました。

人形をアメリカに連れ帰ったとき、後にグリーンバレーの中心になるような人が５名ぐらいおりました。いろんなプロジェクトや、地域づくりのまず第一歩は、複数の人間の存在だと思うんです。同じ成功体験を共有したり、雰囲気、空気というのを味わったりするということが非常に重要になってくるんじゃないかと思います。

２．「創造的過疎」による地域創生の取組み

「創造的過疎」、これが、グリーンバレーのテーマの一つです。２００８年を境に日本の総人口は減少し始めています。神山のような過疎化の進んだ場所では、人口減少を食いとめるのは到底無理だ。じゃあ、どうするか。逆に外から若い人を呼び込んで、人口構成の健全化を図っていこうというのが「創造的過疎」の発想です。例えば、「ワーク・イン・レジデンス」というのがあって、職業を持った移住者や、仕事をつくり出してくれる企業を呼び求めています。

グリーンバレーは、外部のＩＴ専門家などの協力を得て、神山町の情報発信も積極的にしているので、マスコミでも紹介されます。昨年の５月には、アメリカの新聞、ワシントンポストにも取り上げられました。そのおかげで、アメリカやイタリア、オーストラリアなどからも反応があり、現に、神山に移住した人や、移住したいという人が出てきています。

「神山アーティスト・イン・レジデンス」、これは、内外のアーティストに滞在してもらい、創作活動をしてもらう試みです。やり始めてから１８年になりますが、これまでに１９カ国から六十数名のアーティストが神山にやってきました。このプログラムによって、住民は、寛容性というかを育み、外国人に対しても優しく接することができる空気を作っていったんじゃないかなと思います。

３．町役場職員と町民が一緒になって作った神山町地方創生総合戦略

神山町は、昨年１２月、地方創生の総合戦略をまとめましたが、その際に、全く新しいやり方で取り組みました。これまでのようなやり方を踏襲せず、役所と住民が一緒になって計画を作り出すんです。まず、役所と住民１４人ずつからなるワーキンググループを作ります。そのメンバーは、アイデアを他人任せではなくて、自分のこととして考え、実行、支援できる人を集めました。そうすると、会議を重ねていく中で塊ができていくわけです。「自分はこういうようなプランをやりたい」、あるいは、「人づくりをやりたい」、「仕事づくりをやりたい」みたいな人のグループが５つ、６つできます。

昨年の１１月、町民向けに中間発表会を開いたとき、面白いことが起こりました。各プロジェクトの担当者のプレゼンが終わった後、出席していた町役場職員や町民の中から、「このプランは私がやる」と次々手が挙がったんです。ある住民が自腹切ってでもやるといえば、役場の若手職員３名ぐらいが、僕らは役場をやめてでもこれをやりますよと言ってくれた。会議の雰囲気が、がらっと変わりました。

神山町地方創生総合戦略は、役場ではなく、町役場職員とグリーンバレーのスタッフが社員になって設立した一般社団法人「神山つなぐ公社」が実行するんですが、計画立案の段階から、もう全速力で回り始めたような感じです。

最後に一言、皆さんは、宮津が大好きですね。でも、手をこまねいていては何も変わりません。好きな宮津をステキな宮津に変えましょう。これ案外簡単なんです。

皆さんが、いい方向に行動を起こしたら、必ずステキな宮津ができ上がります。！「Just Do It!」、とにかくやれです。

御清聴どうもありがとうございました。

（以上）

講演会　講師 大南 信也 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（宮津市）

「神山発！日本の田舎をステキに変える

～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」

日時：平成２８年１０月２２日

場所：ホ　テ　ル　北　野　屋

パネルディスカッション（要約）

○谷口氏　　パネリストのお二人を交えて、お話をしていきたいと思います。

倉田崇さんは、天橋立文殊繁栄会のメンバーで、コーヒーとパンのお店を、小松美香さんは、カフェアンドレストランを経営されておられます。お二人から活動の内容と今後の目標などをお聞きして、大南さんからアドバイスをいただきたいと思います。

１．「JouJou Coffee and bread」の取組事例

○倉田氏　　天橋立の駅前で「JouJou Coffee and bread」というコーヒー屋をしていますが、旅の人が、また来てみたいと思ってもらえるような風景をつくり出す試みをしています。去年、今年と、天橋立の砂浜に自分達で小屋を建てて、丹後のバーテンダー、ピザ職人、カフェなどを集めて、ビーチバーをやりました。また、天橋立文殊堂の山門の前に和傘を立てて、オーケストラの演奏をしたり、夏には、天橋立の新たな朝の楽しみを提供しようということで、マルシェで朝食を買い込んで船に乗ってもらい、朝食を食べながら宮津湾のクルーズを楽しんでいただいたりといったこともやりました。

若い世代が、「もうこのまちあかんな」と思われるのが僕ら一番怖いんです。宮津だ、峰山だとかこだわらず、天橋立、丹後を愛する、クリエイティブな思想を持ったメンバーが集まって、新しいまちの魅力づくりに挑戦を続けていきたいと思っています。

２．「Mog Mog」の取組事例

○小松氏　　私は、市役所の近くで「Mog Mog」というカフェをしていますが、「みやさんぽ」というバルイベントをやっています。バルイベントは、まちの飲食店を食べ歩くことです。一般的に、他の地域でされているバルイベントでは、チケットが使えるのは食べ物だけなんですが、「みやさんぽ」では、食べ物以外に、例えば、１チケットで、魚の競に参加できたり、カフェでコーヒーの入れ方を習ったりすることができるのが特徴です。

大学生や市職員など約３０人の実行委員会が、手弁当でいろんな企画をしています。目玉になりそうなのが、約２０人のコンシェルジェです。決まったコースを案内するガイドではなくて、「みやさんぽ」と書いたたすきがけでまちを歩き、旅の人に親切にしてあげたり、聞かれたらあれこれ話したりするという役で、男性の「おっさんぽ」もいます。

私達は、市民みんながコンシェルジェになって、最終的にはこんな企画が要らなくなることを目標としてやっています。

３．まちを元気にするのはまちを愛する住民

○谷口氏　　大南さん、今のお話を聞かれて、御感想、アドバイスをいただきたいと思います。

○大南氏　　やっぱり、人は面白い場所に集まるんだなと思いました。

天橋立というあまりにも素晴らしい資源を持っていても、ほとんどの人達は１回来たら、よほどの天橋立おたくでない限り、もう１回見たからええわというんで終わると思います。

一番大事なところは、そこに住んでいる人間が一番のポイントになるんじゃないかなというような気がします。小松さんや、倉田さんのように、面白くしよう、してや

ろうという人達が集まれば、当然、まちは躍動して、それが相乗効果で、１つの循環みたいなことを起こしていくのかなという気がします。

市長挨拶

○井上市長　　大南さんには、遠路お越しいただきまして、貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。

倉田さん、小松さんにはパネラーとして参加していただき、ありがとうございました。

また、この講演会を開いていただきました福知山公立大学の井口学長をはじめ、先生方、皆さん、本当にありがとうございました。

今、宮津は、この５年間が正念場だとして、再生に向けて全力を挙げて取り組んでおりますが、「Just Do It!」、とにかくやれという大南さんの力強いお話が聞けて良かったと思ってます。

本日参加いただいた皆さん全員が力を合わせて宮津版グリーンバレーを作っていただきたいとお願いしたいと思います。

また、井口学長から、福知山公立大学が地域にどんどんと入っていくようにしたいとの話がありましたが、宮津の再生にお力を貸していただきたいと思います。

(以上)

パネルディスカッションの様子

パネリスト（左から倉田 崇 氏、小松 美香 氏）

第4回
伊根町

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 伊根町

11月5日(土) 13:30～16:00

基調講演

東北が取り組んでいる新しい農林水産業
～「東の食の会」の事例紹介～

講師 高橋大就 氏（一般社団法人「東の食の会」事務局代表）

入場料無料
定員100名

高橋大就 Daijyu Takahashi

一般社団法人「東の食の会」事務局代表

プロフィール
外務省に8年半勤めた後
2008年4月、マッキンゼー・アンド・カンパニーに転職。
その後3.11を受けて休職、東北に入る。
2011年6月、一般社団法人「東の食の会」発足とともに事務局代表就任。
8月、正式にマッキンゼー社を退社し
オイシックス株式会社海外事業部長（執行役員）に就任。
2015年10月、Oisix Hong Kong Co., Ltd.を設立、董事長（代表取締役）に就任。
現在、オイシックス香港の代表を務め
日本の安全安心な食材を海外に販売する事業を展開するのと同時に
東の食の会にて東北の食のプロデュースを行い
「サヴァ缶」や「アカモク」などのヒット商品を生み出している。

福知山公立大学開学記念 パネルディスカッション

パネリスト 高橋大就 氏

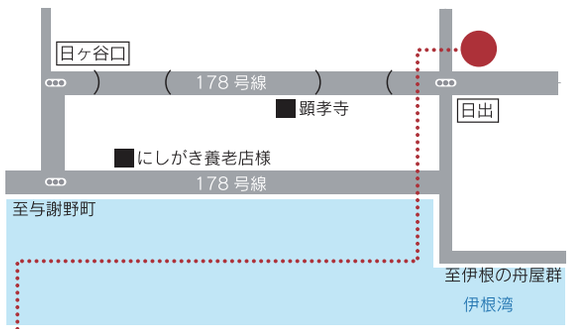
吉本秀樹 伊根町長

佐川善博 氏
蒲入水産（有）代表取締役

松山義宗 氏
（株）KOMOIKEあずき

佐藤　充　プロフィール
1983年生まれ。千葉県出身。法政大学大学院政策科学研究科博士後期課程を経て、
2014年より一般社団法人京都府北部地域・大学連携機構で研究員として勤務。
大学院在学中には、自治体シンクタンクや大学付属研究所で研究員を歴任。

コーディネーター
佐藤　充
福知山公立大学 助教



会場 伊根町コミュニティセンター
ほっと館（ホール）
京都府与謝郡伊根町日出651番地 伊根町役場 P有り

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・伊根町・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（伊根町）

東北が取り組んでいる新しい農林水産業

～「東の食の会」の事例紹介～

日時：平成２８年１１月　５日

場所：伊根町コミュニティセンター

ほっと館（ホール）

講　　演（要約）

１．「東の食の会」について

「東の食の会」は、東北のすばらしい食材、生産者に対して首都圏を中心に継続的な販路をつくろうという発想からつくられた団体です。参加企業は、食関連企業のオイシックス、カフェカンパニー、キリン、キューピー、ぐるなび、セブン＆アイ、ファミリーマート、ローソン、伊藤忠食品などの大手企業が約４０社を数えるだけではなく、小規模な居酒屋や卸売業者もメンバーになっています。

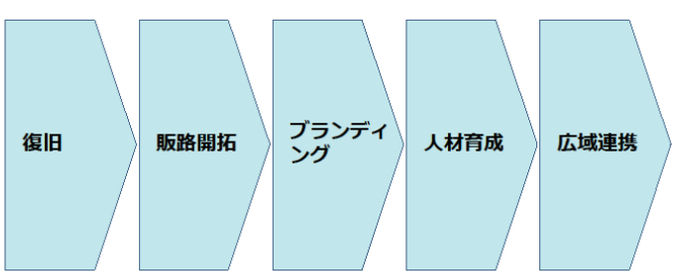
当会は、具体的な経済効果を生み出すために立ち上げられ、ビジネスとして事業を展開しています。これまでの成果（２０１６年６月まで）をみると、マッチング件数は５年間の目標値である５００件に対して約２，５００件となり、また流通総額は５年間の目標値である２００億円に対して約１５０億円となっています。一非営利団体の活動としては、一定以上の評価を与えることができると思います。

２．東北の一次産業復興のステップ

東日本大震災による被害は大きなものでした。死者・行方不明者が約２万人、避難者がピーク時４０万人超でした。また、津波被害農地は2万1千ヘクタール、漁船被害は2万8千隻、農林業と水産業のインフラ被害額はともに１兆円超となり、大きな被害をこうむりました。

東北の一次産業復興のステップ

（図表１）



東北の一次産業復興のステップは、①復旧、②販路開拓、③ブランディング、④人材育成、⑤広域連携の５つの段階に分けられます。（図表１参照）

まず、復旧の段階において、当会では、特に放射能検査に取り組みました。元IAEA顧問であり国際的な専門家であるジェームズ・M・スミス教授の助言を得ながら、放射能検査の機器導入支援、その他情報発信の取り組みを行いました。

次に、販路開拓の段階では、福島県、宮城県、岩手県の地方銀行6行から地元生産者の情報提供も受けながら､復興を目指す生産者と支援企業とのマッチング事業を推進しました。

第3に、ブランディングでは、東北のイメージを一新する、インパクトのあるものをということでさまざま商品をつくりました。

まず、缶詰の装飾にイエロー一色を施した、この「Ça va(サヴァ)缶」、オリーブオイルに漬けたサバの缶詰です。これが１５０万缶ぐらい売れ、地方発のヒット商品の一つのモデルケースのような形になりました。ただ、半年後には某メーカーが、これをまねた類似商品を出してきました。東北の商品をみんな不安視していた中で、今や、まねをされる状況は、非常にうれしく思っています。

また、宮城ではギバサ、岩手ではアカモク、新潟ではナガモなどと地方によって名前が違う海藻があります。免疫力と脂肪燃焼効果では、海藻の中でも断トツですが、従来は、ぱっとしない伝統的なパッケージで売られていました。そこで、名前を学名のアカモクに統一し、女性をターゲットにしたパッケージにしました。このアカモク、東京では、震災前はほぼ認知度ゼロでしたが、今は、市場が５倍ぐらいに広がっています。

福島でも、甘酒を高級化粧品的なブランディングにして、コージービューティー（ｃｏｚｙ　ｂｅａｕｔｙ）という名前で売り出しています。こうじの美容ドリンクといった意味合いですが、徐々に売れ始めています。

このような販路開拓やブランディングは、今は、我々よそ者が入って、地域の方々と一緒に取り組んでいますが、地域の中にこのようなスキルを身につけないと長期的な復興につながらないことに気づき、途中から人材育成事業を立ち上げました。

当会が中心となって、三陸全体、福島も含めて規模の大小、年齢に関係なく、とにかくポジティブな人なら誰でもいいから来てくださいと呼びかけたら、非常に前向きな若者たちが各地域から集まり、マーケティングやブランディングを勉強する「三陸フィッシャーマンズ・キャンプ」が開催できました。

このキャンプに参加した若者たちは、地域の垣根を超えて、東北の地に「フィッシャー

マンジャパン」という団体をつくりました。広域連携の段階です。彼らは、助成金を得て、漁師の卵のためのコ・ワーキングスペースをつくり、無料で住まわせたり、研修をしたりするなどの事業を行っています。また、彼らは、自分たちのことを「新３Ｋ」と称しています。格好よくて、稼げて、革新的という意味です。このテーマをベースにして、三陸のプロモーションビデオも制作しています。

このような連携は、「フィッシャーマンズ・リーグ」や「チームふくしまプライド。」にもつながりました。また、同じ仲間の岩手の水産加工業の方は、先日、三陸ブランドをひっさげてハワイとロサンゼルスで展示会を行い、既に大きな取引も決まっているような状況です。いろんな地域から集まってきた人たちでも、地域を超えた連携が生まれて、思いもしなかった新しいことが、次々と起きるのだということを、今、私は感じています。

３．新しい一次産業のキーワード

新たな一次産業を考えるためのキーワードとして５つの点が挙げられます。（図表２参照）

まず、「顧客視点」があります。今ある商品を売り込む「販売」ではなく、顧客に選ばれるための戦略づくりを行う「マーケティング」が大切になります。「何を売るのか」という視点から「なぜ買うのか」という視点に変えていく必要があります。

次に、「右脳と左脳と心」です。マーケティングを実施する際には、商品やサービスの機能的な価値は左脳に、デザイン的な価値は右脳に、情緒的な価値は心に、それぞれ訴求する三角形マーケティングが求められています。

第３に、「ブランド」が挙げられます。ブランドのありたい姿であるブランド・アイデンティティを明確にして、消費者の心の中に明確なブランド・イメージを形成しなければなりません。ブランドは、売り手の中ではなく、買い手の心の中にあります。

第４に、「変態」も大切になります。例えば、イチゴを一粒１，０００円で販売してしまう農業法人の社長や六本木のステージで語ってしまう漁師といった型破りな人たちがいます。今までにない発想で、新しいことに取り組む変態も重要になります。

最後に、「壁を壊す」というポイントがあります。ここでいう壁とは、①サプライチェーンにおける業態の壁、②行政区域の壁、③地元民とよそ者の壁の３つです。それぞれの壁を壊していくなかで、これまでにはない一次産業を生み出すことができます。

（図表２）

新しい一次産業のキーワード

1. 顧客視点
2. 右脳と左脳と心
3. ブランド
4. 変態
5. 壁を壊す

（以上）

講演会 講師 高橋 大就 氏

開学記念連続講演会（伊根町）

東北が取り組んでいる新しい農林水産業

～「東の食の会」の事例紹介～

日時：平成２８年１１月　５日

場所：伊根町コミュニティセンター

ほっと館（ホール）

パネルディスカッション（要約）

○佐藤助教　　福知山公立大学地域経営学部で助教を務めております佐藤充です。本日の進行役を務めさせていただきます。

一般社団法人東の食の会事務局代表の高橋様の基調講演を受けまして、伊根町長の吉本様、株式会社ＫＯＭＯＩＫＥあずきの松山様、蒲入水産有限会社代表取締役の佐川様、そして高橋様を交えてお話をしていただきます。

１．各パネリスト自己紹介及び基調講演を受けて

まず、自己紹介と、講演のコメント、質問などを伺いたいと思います。

○佐川氏　　私は、この２月まで現役の漁師でした。今、大型定置網や加工事業、それから、地域で小さい店をやっております。漁師が格好ええというお話でしたが、容姿ではなく、仕事で格好ええと受けとめたんですが。

○高橋氏　　そうですね。生き様というか、我々が失ったものを持ってるなという意味です。特に、女性が非常に惹かれています。

○松山氏　　薦池大納言の販売と生産、それと、イタリアンレストランもやっています。地元の薦池大納言を世の中に知らしめて、一次産業の収入が増える仕組みを作りたいと、ここ３年余、町長の支援も受けて頑張っています。成功例を紹介いただきましたが、苦労される点などをお聞きしたいです。

○高橋氏　　値づけですね。一方的に７掛け、８掛けでしか卸さないと言った途端に、ほとんどの販路を失ってしまいがちです。買い手視点でＷｉｎ－Ｗｉｎの関係を設定することを心がけています。

○吉本町長　　私は、大学卒業後、すぐ漁師になり、町会議員を経て町長になりました。伊根町で誇れるものを世界に発信しようと１０年近く言い続けてきましたが、高橋さんのお話を聞いて、私は間違っていなかったと思いました。それから、農業も漁業も、きつい、汚い、危険と思われていますが、その辺の意識改革も必要だろうと思いました。

もう一つ、広域連携の話ですが、みんな「京都は一つだ」というんですが、腹の中は「京都はそれぞれの市町にわかれている」なんです。京都府内の市町が一つにまとまるにはどうしたらいいんでしょう。

○高橋氏　　まず、こういうエネルギッシュな町長がいるところは、素晴らしいと思います。東北でも成功している地域は、首長さんの影響力、リーダーシップが非常に大きいです。今、三陸のブランドを決めようと行政のほうで協議会が立ち上がっています。三陸には、ホタテ、フカヒレ、ギンザケといろいろあるんですが、我々は漁業者の方々とリーダーとで相談して、勝手にシンボルは「カキとワカメ」と決めてプロモーションビデオを作りました。民間先行の成功事例があれば、それを行政がすくいあげて展開するのも一つの方法かと思います。

２．各パネリストの事業における現状と課題

○佐藤助教　　高橋さんには、いろいろキーワードを挙げていただきましたが、私は資源管理も重要と思いますが、この点についてお考えを聞かせてください。

○高橋氏　　意識の高い水産業者は、みんなそのことは考えていまして、我々もアメリカの環境団体と資源管理を積極的にやろうとしているところです。

○佐藤助教　　佐川さんは、定置網事業、加工事業、漁港めしもされておられるので

すが、現状と課題をお聞かせください。

○佐川氏　　人手が地元でなかなか見つからないので、他の土地からも来てもらっています。蒲入地区では、かつて６０軒ぐらいが、漁師でしたが、今、携わっているのは半分程度です。若い人は都会へ出ていきます。私の子どもにも帰って跡を継げとはなかなか言いづらいですね。

○佐藤助教　　松山さんがやっておられる幻の薦池大納言の商品開発の取り組みと課題についてお聞かせいただければと思います。

○松山氏　　薦池大納言は特殊な小豆で値段も高いんです。地元の方に買っていただくのは到底無理だと思い、都会で売ろうと、東京や大阪まで出向くなど生産から営業まで、私が全てやりました。薦池大納言をＪＡに出荷すれば、１キロ８００円で買い取られますが、私は２，２００円で買い取ることを決めました。安く買い上げては生産者の暮らしが成り立たないからです。そうやって、一次産業を周りの人も育てていかないとだめだと思いますね。悩みは、佐川さんと同じく、人手不足、後継者がいないことです。

○佐藤助教　　一次産業のサポートについて、行政サイドから、吉本町長のお考えを聞かせてください。

○吉本町長　　行政としては、考えることは補助金ばっかりなんですね。新規就農されたら５年間１５０万、漁業者であれば、ちゃんと漁業権を持たれるときには、年間１５０万を２年間などの補助があります。ほかに子どもの教育費や医療費、給食費などの支援策もあります。しかし、もっと根本的な支援策が必要だと思います。講演会等では、講演者は、農業や水産業の環境は厳しいなんて言うばかり。暗いんですよ。漁業者、農業者も一人一人が最低収入５、６百万取れるようにしたい。できるかできないかはわからないですよ。だけど、それを達成するにはどうやっていったらいいのだろうか。みんなで語って優先順位がつき、やらなければならないことが生まれたら、あとは、それをやるかやらないかではないかと思います。

○高橋氏　　今、町長の仰ったことは、すごい重要だと思いました。日本は、人口が減っているのであらゆる産業で人が足りない。しかし、地域産業を支える担い手は絶対に必要。とにかくチャレンジしないことには、成功も絶対生まれないので、失敗を恐れず、トライ・アンド・エラーをしていくことしかないんじゃないかなと思います。

○佐藤助教　　最後に、大学との連携について御意見を伺いたいと思います。

○高橋氏　　先ほど、福知山公立大学の話を聞いて思ったのは、地域産業を起こす担い手を育てることが学校のミッションだとすれば、学生達に好き勝手にやらせるスペースを与え、起業にもチャレンジさせるようなこともいいかなと思います。

○佐川氏　　福知山公立大学には、一次産業に興味を持っていただく人材を育てていただくことを特に期待してます。

○松山氏　　伊根町の現状を知っていただくために、学生に現実をそのまま見せるというのが大事かなと思います。

○吉本町長　　私が大学４年のとき、先生に家業のことを聞かれて、丹後の伊根の漁師ですと言ったら、それを継ぐのも君の道じゃないかと言われたんです。先生方も、そういうことを一言伝えてあげてほしいです。それから柔らかい頭の若者とぜひともコラボをさせていただきたいですね。

○佐藤助教　お話をお伺いしていてすごく印象に残ったことが数多くありますが、そういった中で、本学がどのような形で伊根町さんと一緒になって地域の課題に取り組んでいくかというところが、我々に突きつけられている部分かと思います。

ありがとうございました。

（以上）

パネルディスカッションの様子

パネリスト（左から松山 義宗 氏、吉本 秀樹 伊根町長）

第5回
綾部市

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 綾部市

11月26日(土) 13:30～16:00 (受付開始 13:00)

基調講演 **田園回帰の時代 ～未来の希望を求めて～**

講師 小田切徳美 氏 (明治大学農学部 教授)

入場料無料
定員200名

小田切徳美 Tokumi Odagiri

明治大学農学部 教授

プロフィール

1959年生まれ。東京大学農学部卒業。同大学院博士課程単位取得退学。
博士(農学) 東京大学。東京大学農学部助手、高崎経済大学経済学部助教授、
東京大学大学院助教授を経て、2006年より明治大学農学部教授。
2011年より明治大学農山村政策研究所代表。
【公職】日本学術会議会員、ふるさとづくり有識者会議座長(内閣官房)、
地域の課題解決のための地域運営組織に関する有識者会議座長(内閣官房)、
国土審議会委員(国交省)、食料・農業・農村政策審議会委員(農水省)、
過疎問題懇談会委員(総務省)、今後の農林漁業・農山漁村のあり方に関する
研究会座長(全国町村会) 等を兼任。
【著書】『まちづくり読本』(共著・ぎょうせい)、『地域再生のフロンティ ア』(編著・農文協)、
『農山村再生に挑む』(編著、岩波書店)、『農山村は消滅しない』(岩波新書) など多数。

福知山公立大学開学記念 パネルディスカッション

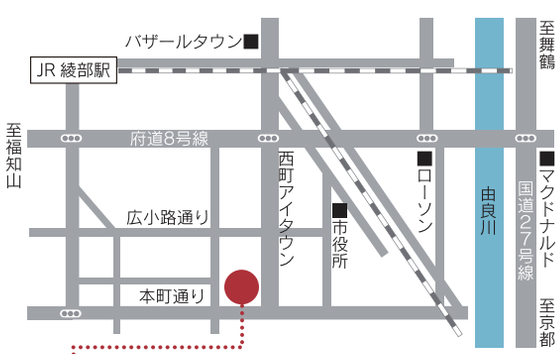
パネリスト 小田切徳美 氏

平田佳宏 氏
あやべ市民新聞社
経営企画室長

工忠衣里子(くちゅう) 氏
「里山ゲストハウス クチュール」女将

コーディネーター
塩見直紀
福知山公立大学 准教授

塩見直紀 プロフィール
1965年、京都府綾部市生まれ、綾部市在住
大学では日本古代史(奈良平安時代の政治) を学ぶ
10年間、株式会社フェリシモに在籍(人材教育、ソーシャルデザインルームなど)
33歳を機に、故郷・綾部へUターン。2000年、「半農半X研究所」を設立
21世紀の生き方、暮らし方として、半農半X(エックス=天職) というコンセプトを 20年前から提唱
NPO法人 里山ねっと・あやべのスタッフとして綾部里山交流大学、定住支援、農家民泊、
情報発信を担当
著書に『半農半Xという生き方【決定版】』『綾部発 半農半Xな人生の歩き方88』など、
台湾、中国、韓国でも翻訳され出版、海外講演も
総務省地域力創造アドバイザー



会場 I・Tビル 多目的ホール
京都府綾部市西町一丁目49-1

お問合せ
福知山公立大学 北近畿地域連携センター
0773-24-7151 〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170 mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・綾部市・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp 福知山公立大学 The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（綾部市）

田園回帰の時代

～未来の希望を求めて～

日時：平成２８年１１月２６日

場所：Ｉ・Ｔビル　多目的ホール

講　　演（要約）

○小田切氏　　皆さん、こんにちは。明治大学の小田切と申します。農村政策を研究しております。

１．田園回帰

演題の「田園回帰」という言葉は、「食料・農業・農村白書」などで使われ、いまや政府公認の言葉になっています。内閣府の世論調査によると、都市に住む２０代の男性の約半分にあたる４７．４％が、「将来、農山漁村に住みたい」と言っています。女性の意識もここ１０年で随分変わってきています。「子育てに適しているのは農山漁村か都市か」といった設問に対して、農山漁村で子どもを育てたいと答える比率は、女性のほうが高いんです。

５年前から、全国の農山村移住者数をＮＨＫ、毎日新聞、それに明治大学の私の研究室とで調査をしていますが、２００９年には３，０００人程度だったものが、今は４倍増の１万２，０００人になっています。５年後には、２～３万になるのではないかと思います。ただ、この傾向には地域差があります。２０１４年のトップ５は、岡山、鳥取、長野、島根、岐阜で、この５県だけで全国の移住者数の約５割を占めています。京都府は４０人で、うち２３人が綾部でした。

移住者は、２０代、３０代のファミリー世代が増えている傾向があって、これが必然的に女性の割合を増やしています。そして、主役はＩターン者、都会から入ってく

る人です。鳥取県のケースを見ると、Ｉターンが増えた地域でＵターンもふえるという連鎖関係が見られます。Ｉターン者の方が発信する田舎暮らしのブログとかツイッターに触発されて、都会に出ていた人が地元に帰ってくるといったケースです。

そしてこの延長線上に出てきているのが、「孫ターン」です。好例が、ＮＨＫの朝ドラ「あまちゃん」のアキちゃんです。アキちゃんは、東京生まれで、そのお母さんの小泉今日子さんは、岩手の三陸海岸生まれ、田舎が嫌で飛び出したが、その娘のアキちゃんは、自分がやりたいのは、おばあちゃんがやっている海女さんなんだと言って、三陸海岸に入ってきた。まさに孫ターンですが、こういった傾向が決して少なくないんです。たまたま私の友人が山口県周防島というまちにいるので、調べてもらったら、十数％が孫ターンでした。出ていった息子や娘は諦めざるを得ないかもしれませんけど、孫は帰ってくる可能性があるんです。

福知山公立大学の塩見先生が唱えられた「半農半Ｘ」という考え方が、日本国内だけではなく、台湾、中国、韓国などを席巻していますが、実は移住者の中にこういったライフスタイルを求めている方も少なくありません。例えば、新潟県の十日町のＫさん。彼は、地域おこし協力隊を終えた後、地域のＮＰＯに勤めましたが、地元のおじいちゃん、おばあちゃんたちが自給菜園的に作る野菜を集めて、東京のこだわりレストランに提供する仕事を立ち上げたり、各公民館で健康体操の講座が賑わっているのに着眼して、健康体操のインストラクターの資格を取得、講師をして稼いだりしているんです。

２．移住・定住に対する意識の変化

「むらは閉鎖的だ」、「空き家など流動化しない」、「仕事がないから人は来ない」というのが、移住対策のハードルだといわれてきました。しかし、このハードルは、明らかに低くなっています。移住する側では、むらの濃密な人間関係が温かいと言いだした若者たちがいます。移住する前に移住・定住の専門雑誌で、むらのルール

をしっかりと学ぶ人たちが生まれつつあります。

受け入れる側の意識も変わりつつあります。例えば、広島県三次市の青河地区では、住民たちが出資して有限会社の建設会社をつくり、空き家の補修などをしっかりやって、移住者を積極的に迎え入れています。

移住・定住は、恐らく皆様方の予想を超えた勢いで進んでいくんだと思います。それを受け入れることができるかどうかは、行政の一時金とかいうものではなく、しっかり地域磨きをすることにかかっていると思います。地域磨きとは、例えば、ＪＡが撤退したら、地域共同売店をみんなで立ち上げるとか、生活交通が脆弱化したらコミュニティ運営の白ナンバーの特別な許可をとるといったこと。綾部市でいえば、まさに水源の里の営みを各地域の中で確実にこなしていくことが、移住者を引きつける最大のポイントになっていくのではないかと思います。

御清聴ありがとうございました。

（以上）

講演会 講師 小田切 徳美 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（綾部市）

田園回帰の時代

～未来の希望を求めて～

日時：平成２８年１１月２６日

場所：Ｉ・Ｔビル　多目的ホール

パネルディスカッション（要約）

○塩見准教授　　小田切先生、御講演ありがとうございました。

私は、１９９９年、３３歳のとき、綾部にＵターンで帰ってきました。それから、私的なことで恐縮ですが、娘がこの春から明治大学農学部に進学しました。彼女が小田切先生から多くのことを学んで帰ってきて、頼もしいパートナーとなることを願っております。

本日のパネルディスカッションは、二人のパネリストと小田切先生と御一緒させていただいて進めていきます。

まず、あやべ市民新聞社経営企画室長の平田佳宏さんからお願いします。

１．パネリスト自己紹介及び綾部市への移住経緯

○平田氏　　私は、香川県高松市の生まれです。大学を出てから、３０年間、ずっと電通で働きました。なぜ、私が電通を辞めて綾部にやってきたかというと、消費するだけの都会生活に疲れを感じたことと、食品とか薬品とか環境に関することで疑問に思うことが増えてきたからです。そんなときに塩見さんの「半農半Ｘ」という本を読み、こんな生き方もあるのかと感銘を受けて、早期退社に踏み切り、綾部に引っ越しました。田んぼと畑も手に入り、あやべ市民新聞社で週に３日働かせていただきながら、無肥料、無農薬の米と野菜を作る野良仕事にいそしんでおりまして、「半農半Ｘ」を地で行くような生活が送られているかなという感じです。

○工忠氏　　工忠衣里子と申します。綾部市の上林というところで、里山ゲストハウスクチュールという農家民宿を運営しております。私は大阪府の堺市の出身で、大学を出て大阪でシステムエンジニアとして８年間働いた後、この５月に移住し、主人と一緒に暮らしております。主人とは４年前に知り合いましたが、交際を始めた直後、彼の会社が倒産しましたので、彼の夢だったゲストハウスをやろうということで、２人で半年間、移住先を探し歩き、綾部温泉で主人の仕事が見つかったのを契機に綾部に移住しました。今、綾部市の市役所で嘱託職員として勤務する傍ら、ゲストハウスを経営しています。

ゲストハウスは、皆さんに手伝ってもらって古民家を改修したものです。お客様は、欧米やアジア各国に及び、ちゃんと情報を発信すれば、こんな山奥でも世界中から人が来てくださるんだなと実感しています。外国人に茅葺屋根の屋根裏を見ていただいたりしていますが、これからも地元の方との触れ合いを大切にして、コンテンツを作っていきたいと思っています。

２．移住・定住者を惹きつける綾部市の魅力

○塩見准教授　　小田切先生、御感想をお願いします。

○小田切氏　　お二人には、共通性がありますね。１つは、生き方を見直していくということです。２番目には、綾部の魅力に引き寄せられてというものがあったと思います。そして、３番目に、非常に柔軟な、しなやかな、弾力的な生き方をされていることだと思います。特に平田さんの新聞社に３日間だけ出勤というのは、理想的な暮らし方だと思います。今、政府は働き方改革というものをやっており、単に残業を減らすだけではなく、部分就労とか、リクルートなんかは副業奨励というような動きが出てきておりますが、お二人はまさに先進的にそれを実践されているなと感じました。

○塩見准教授　　周辺にある魅力的な店とか、面白い人がいれば挙げてください。

○平田氏　　一つは、「そばの花」というお店で、そこの主人は、私が初めて綾部に

来たとき、いろんなことを教えてくれました。もう一つは、農家民泊の「イワンの里」で、二つとも移住者の基地みたいに作用しているような気がします。それから、この間、うちの隣に櫛田寒平さんという半農半歌手が引っ越してこられました。

○工忠氏　　上林では、「Suncha　cafe（サンチャカフェ）」というカフェが、オーガニックで、ベジタリアとスイーツを作ったりとか、こだわった商品づくりをされていて、雰囲気も素晴らしく、発信力がすごいです。あとは、私たちの友人で、Ｕターンした女の子がオープンしているカフェ「amuamu」があります。Ｉターン、Ｕターン組が集まっていろいろやっています。

○塩見准教授　　この動きをもう少し前に進めるためには、やっぱり発信力だと思うんですけど、ほかに綾部には何が必要なんでしょうか。

○小田切氏　　全国を歩いている私の立場から見ると、ほぼ全てが揃っているという気がしないではないんですが、整理して言いますと、人が人を呼ぶという、この流れですね。実は、全国的に一番多いのは、地域コーディネーターです。２４時間体制で対応してくれる地域コーディネーターの方に惚れちゃったというのが結構あるんですね。それから、もう一つは移住者の先輩です。そして、すご技を持っている地域の魅力的なじいさん、おばちゃんたちですね。こうした３種類の磁石がしっかりと機能し、さらに力を発揮することが特に必要なことだと思います。

（以上）

パネルディスカッションの様子

パネリスト（左から小田切 徳美 氏、平田 佳宏 氏、工忠 衣里子 氏）

第6回
舞鶴市

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 舞鶴市

12月11日(日) 10:00～12:00

基調講演　クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性

講師　山口直彦 氏（商船三井客船株式会社　代表取締役社長）

クルーズ観光

入場料無料
定員330名

山口直彦 Naohiko Yamaguchi

商船三井客船株式会社　代表取締役社長

プロフィール
1981年　神戸商科大学（現兵庫県立大学）経済学科卒業
1981年　大阪商船三井船舶（株）入社
1991年　クルーズ船事業調査（マイアミ長期出張員）
2008年　（株）商船三井 グループ事業部長
2011年　商船三井客船（株）取締役
2013年　同　常務
2016年　同　代表取締役社長

【主な社外役職】
2016年～（一社）日本外航客船協会 会長

福知山公立大学開学記念パネルディスカッション

パネリスト　山口直彦 氏

多々見良三 舞鶴市長

酒井敦史 氏 京都府京都舞鶴港振興監

糸川雄介 氏 コスタクルーズ日本支社 支社長

コーディネーター
篠原正人
福知山公立大学 教授

プロフィール
1950年　京都市生まれ
1973年　大阪市立大学経済学部卒。商船三井入社　英国ロンドン、オランダ駐在を経験
2001年　オランダにて経営コンサルタント開業、エラスムス大学（オランダ）講師兼研究員
2004年　東海大学海洋学部教授。2006年　エラスムス大学にて博士号取得
2016年　東海大学退職、福知山公立大学特任教授

学外の職務：国土交通省交通政策審議会港湾分科会委員、静岡県地方港湾審議会副会長　等
海運経済学、港湾経済学、サプライチェーンマネジメント、異文化経営学等

研究テーマ：わが国の港湾政策に関する研究。今後は舞鶴港の活性化に関する研究に着手する。
海運、港湾、物流分野における人材開発に関する研究。

会場　舞鶴商工観光センター
京都府舞鶴市字浜66　P 有り

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151　〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・舞鶴市・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府・一般社団法人京都舞鶴港振興会
関西クルーズ振興協議会・京都舞鶴港クルーズ誘致協議会

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（舞鶴市）

クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性

日時：平成２８年１２月１１日

場所：舞鶴商工観光センター

講　　演（要約）

○山口氏　　皆さん、おはようございます。商船三井の山口です。「クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性」と題して、基調講演をさせていただきます。

１．世界、日本におけるクルーズ産業の現状

船内での宿泊を伴うクルーズ船は、世界で３００隻から４００隻ぐらいあります。世界全体のクルーズ人口は、約２，３００万人、クルーズ会社の売り上げが３．７兆円、付随する関連産業まで含めますと産業規模は約１４兆円と言われております。

世界のクルーズ人口の半分は北米で、イギリス、ドイツがそれぞれ１８０万人で、日本は２０万人、近年中国がふえており、１００万人と言われております。

クルージング企業は、かつてたくさんありましたが、今は合併してカーニバルグループなど４つか５つのグループになり、実質的にはアメリカに本社があるグローバル企業が支配しているのが実態です。

クルーズ船は、大型化が進み、１６万から１８万トンぐらいが主流で、大きいのでは全長３６０メートル、２２万トン級もあります。船内は、リゾートパークそのもので、テーマパークごと移動してるといったイメージです。

中にはシアターやショッピングアーケード、カジノ、複数のレストランもあって、お客様は船内でほとんど満足いただけます。一方で、今、小型の客船でアマゾンや南極に行くクルーズ船なども人気があります。

現在、日本の客船は、皆さんも御存知の「飛鳥Ⅱ」、「にっぽん丸」、「ぱしふぃ

っくびいなす」の３隻で、一番大きい飛鳥でも５万トンです。中型、小型級ですが、大型客船にない利点があります。例えば、いろんな港に行けることや、天候、お客様の年齢等に応じて地元名物の食材を使った船内料理を出せるといったきめ細かいサービスができることです。

２０２０年の東京オリンピックまでに訪日外国人は４，０００万人と見込まれています。既に２，０００万人を突破しましたが、５００万人は船でお連れしようとの計画があり、国交省港湾局にクルーズ振興室ができまして、外国の客船を受け入れるために岸壁の整備や工事をやっております。

２．クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性

日本海は、船会社の立場から見ますと、非常にポテンシャリティの高いクルージングエリアだと思います。歴史的に大陸との結びつきも深く、戦後になっても友好都市の提携も多く、特に舞鶴港は、昔から中心地でありました。

もう一つ、日本海の魅力としては、多様な寄港地があり、海も穏やかですし、気候も安定している。私は、舞鶴や福岡からも乗りましたけども、海から見る景色が素晴らしい。このことを皆さん意外と御存知ないと思います。

船会社が寄港地を決める際には、知名度、地元の歓迎、経済的メリットのほか、どれだけの観光資源があるかを非常に重視します。舞鶴の場合、日本船にとっては、基本的には寄港地になると思います。東京や大阪、あるいは福岡のお客さんは、日本海側をクルーズする際、舞鶴に行ってみたいと言われるんです。

一般的には、１回の寄港で船客１人当たり１万円、多いところで１４万円、２，０００人乗りの船が来ると、約２，０００万円のお金が地元に落ちると言われております。

ただし、こうした経済効果だけでなく、何より大事なのは地元のおもてなしだと思います。「地元の人々と話ができた」、「観光ガイドに載ってないところに連れてい

ってもらえたことが忘れられない」といった声をお客様からも聞きます。

アメリカでは、マイアミという都市を、全米から飛行機で繋げることによって、一番いいクルーズエリアにあるカリブ海を１週間でクルーズできる。つまり、フライ・アンド・クルーズによって、クルーズ人口が、何百万人も増えました。

日本の場合はどうかというと、近年、道路網の整備が非常に進んだと聞いておりますので、京阪神、あるいは奈良県からお客様がバスや自家用車で舞鶴に来て、ここから乗船する。あるいは、関西だけでなく東京からもやってきて、舞鶴から船に乗って日本海の景観を楽しもうということになるかもしれません。

他の港から船で行くと３日目にようやく日本海に入るのが、舞鶴から乗船すると即日日本海からいい所に行ける。この辺をもっとアピールしなくてはいけないと思っております。

いずれは発着地としての舞鶴もあると思いますが、今の時点では、こういった日本海側の魅力を掘り起こして、お客様に紹介していこうと思っております。少しでも御参考になればありがたいと思います。

御清聴ありがとうございました。

（以上）

講演会 講師 山口 直彦 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（舞鶴市）

日時：平成２８年１２月１１日

場所：舞鶴商工観光センター

パネルディスカッション（要約）

○篠原教授　　皆様こんにちは。福知山公立大学の篠原です。

私の専門は、海運、港湾、物流で、舞鶴港のクルーズ船客の動向調査を研究プロジェクトにしており、夏には、舞鶴港での船客の実態調査も行いました。

本日は、商船三井客船社長の山口直彦様のお話を受けて、舞鶴市長の多々見良三様、京都府京都舞鶴港振興監の酒井敦史様、コスタクルーズ日本支社長の糸川雄介様と、先ほどお話をしていただきました山口社長にお話を伺いたいと思います。

１．舞鶴市の取組

○多々見市長　　本日は、皆様とともに舞鶴の港の可能性について議論ができますことを大変光栄に存じております。

舞鶴港は、若狭湾の深く入り組んだところに位置しており、外からの風の影響を受けず、津波にも強い良港で、１３万トン級の船でも入港できます。クルーズ船は、１９９３年に初めて初代の飛鳥が入港して以降、年に３、４回、あるいは０回という状況でしたが、２０１１年に日本海側拠点港に選定された翌々年から急速に増え、今年は１７回、来年は４０回近くが来ることになっております。

最近の試算では、今年１７回の入港による経済効果は、直接効果で１億６，０００万円、波及効果は２億６，０００万円と見ております。舞鶴でのクルーズの魅力は、何と言っても背後観光地のバリエーションの多さだと思っております。市としては、京都府と連携しながらクルーズ客船の誘致、定着、そして起点港化を目指し、国内外で積極的に誘致活動を行っております。また、町の中におきましても商店街、金融機

関、経済会、市民団体、そして高校生ボランティアまでもが一緒になって「京都舞鶴港クルーズ客船のおもてなし関係者連絡会議」を構成し、地域での消費や満足度の向上、地域の文化の紹介などに取り組んでおります。

２．京都府の取組

○篠原教授　　港湾の管理職の立場から酒井さんにお話しいただきたいと思います。

○酒井氏　　私は、もともと国土交通省から来ておりますので、国の施策等を含めて御説明させていただきます。

日本に入ってくる船は大型化しており、１隻で４、０００人以上のお客さんを乗せることが可能な１６万トン級の船が既に日本に入ってきていますが、２、３年後には、５，０００人超のお客さんを乗せた船も入ってくる予定になっております。日本の港は、貨物を中心として造られているため、船の大型化に伴い、現在、国交省港湾局では、貨物の港にクルーズ船も入れるようにするリニューアルを全国で進めております。

また、背後のクルーズターミナルを民間の活力も活用しながら整備するために無利子貸し付けといったものも整えているところでございます。舞鶴港は、もともとが物流の港ですので、港には多くの倉庫群が連なっていますが、中にはあまり見ばえのよくないものもあります。そうした倉庫群にペンキで装飾をし、また、京都ならではの取り組みとして、舞鶴港での和装の体験などを来年に向けて検討しているところでございます。

３．コスタクルーズ日本支社の取組

○篠原教授　　次に、糸川さん、お願いします。

○糸川氏　　舞鶴港には、今年１０回、コスタビクトリアを入港させていただきました。私どもは、創業７０年のイタリアのクルーズ会社ですが、他社に先駆け、２００６年に初めてアジアに進出し、日本、中国、台湾、韓国でビジネスを展開しています。

日本からのクルーズに関しては２０１１年からで、中国発着のクルーズを福岡から乗船するという形でスタートし、２０１３年からは、主に日本の旅行会社がチャーターするクルーズを行ってきました。

今、日本では初めてとなる舞鶴、福岡、金沢での複数港乗下船を試みました。乗船比率は、舞鶴２２％、福岡３３％、金沢４５％でしたが、関西エリア、京阪神地区での認知度の向上に努め、舞鶴の乗船比率が約３０％を超えるようにしていこうと考えています。

欧米では、家から港まで車で来てクルーズに乗るというコンセプトが定着をしています。私どもは、このドライブ＆クルーズというコンセプトを、今年初めて日本で発表したところ、非常に大きな反響がありました。今年、舞鶴市と京都府において、第３埠頭に無料の駐車場を御用意いただきました。来年は、四国や広島、名古屋など中部圏からも車で舞鶴へ来ていただくお客様を増やしていきたいと考えております。

４．クルーズ産業の発展のために

○篠原教授　　お三方のお話を聞かれて、山口さん、コメントをお願いいたします。

○山口氏　　クルーズ産業が、日本で健全に成長するためには、インバウンドとともに、日本人のクルーズ船客が増えることが何より大事だと思います。私が会長を務めております一般社団法人「日本外航海客船協会」でも、宣伝不足をカバーし、クルージング普及のために、服装や船酔いなどについて漫画を使った、わかりやすいパンフレットを作っておりますが、皆さんの周囲の方にもぜひ船に乗ってみることをお勧めいただければありがたいと思います。

○篠原教授　　ありがとうございます。

最後に市長の御意見を伺いたいと思います。

○多々見市長　　舞鶴にクルーズ船が来るようになって４年ですが、ある意味まだ十分な熟練度に達してない状況であろうかと思います。何をすればお客さんが来てくれ、

消費してくれるのか、そのあたりを皆さんとともに考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

○篠原教授　　ありがとうございました。

私たち福知山公立大学でも研究プロジェクトを来年も引き続いてやるつもりでおります。

本日は、どうもありがとうございました。

（以上）

パネリスト（左から酒井 敦史 氏、多々見 良三 舞鶴市長）

パネリスト 糸川 雄介 氏

第７回
京丹後市

地域のための福知山公立大学に期待するもの
～福知山公立大学を使いこなすために～

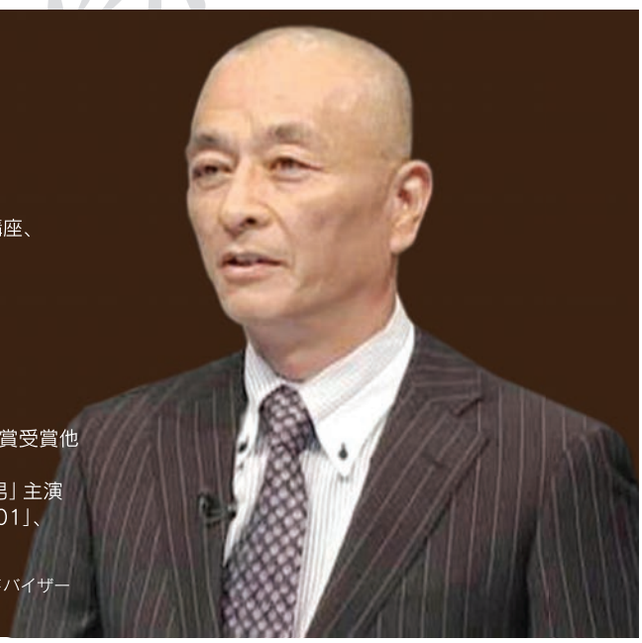
福知山公立大学開学記念連続講演会 in 京丹後市

12月25日（日） 10:00～12:00

基調講演 **地域資源は足元に埋まっている**

講師 高 野 誠 鮮 氏（元羽咋市職員、総務省地域力創造アドバイザー）

入場料無料
定員250名



高 野 誠 鮮 Jyosen Takano

元羽咋市職員、総務省地域力創造アドバイザー

プロフィール
1955年　石川県羽咋市太田町生まれ
〔歴任〕元地方公務員（羽咋市文化財室長　室長 平成28年3月定年退職）
金沢大学非常勤講師（平成6年～平成18年）　法政大学エクステンション講座、
早稲田大学等の非常勤講座等を担当。（平成21年、平成22年）
〔経歴〕昭和59年　羽咋市勤務（臨時職員）　平成3年、任用委員会で吏員採用
昭和59年　「UFOでまちづくり」を羽咋市で勝手に開始
平成　6年　TOYP大賞受賞（石川）
平成13年　毎日新聞コラムで「スーパー公務員」と立川志の輔師匠が紹介
平成14年　「Time誌」で活動が特集される。
平成20年　増田総務大臣委嘱による総務省地域創造アドバイザーとなる。
平成25年　田村明まちづくり大賞受賞　平成27年11月立正大学モラりす賞受賞他
〔特番特集〕
TBS系列連続ドラマ「ナポレオンの村」（原案 /著書「ローマ法王に米を食べさせた男」主演唐沢寿明）のモデルとなる。TBS「夢の扉」（2011、2015）、フジテレビ「報道2001」、日テレ「世界一受けたい授業」、NHK「ホリデーニッポン」その他

日蓮宗 本證山 妙法寺 第四十一世住職・日蓮宗 妙成寺 統括顧問・総務省 大臣委嘱地域力創造アドバイザー
地方創生アドバイザー（富山県氷見市に出向）・立正大学客員教授 / 新潟経営大学特別客員教授

福知山公立大学開学記念鼎談（ていだん）

高 野 誠 鮮
総務省地域力創造アドバイザー

平 野　真 ✕ 三 崎 政 直
福知山公立大学教授　　京丹後市長

早稲田大学理工学部応用物理学科卒業、
理学修士、博士（工学、電子工学専攻、早稲田大学）、
MBA（米国テンプル大学）、
博士（学術、国際関係学専攻、早稲田大学）。
NTT 先端技術総合研究所、NTT エレクトロニクス、
NEL America Inc.（米国駐在）、高知工科大学、
芝浦工業大学を経て福知山公立大学に奉職。
半導体の研究者から、社内ベンチャー事業を経て、
ビジネスそして社会科学の分野にシフト。

昭和 27 年 3 月　京丹後市生まれ
昭和 42 年 3 月　大宮中学校卒業
昭和 45 年 3 月　峰山高校卒業
昭和 49 年 3 月　大阪商業大学商経学部卒業
～平成 28 年 4 月　三崎有限会社　代表取締役
〔公職〕
平成 11 年 4 月～平成 16 年 3 月　大宮町議会議員
平成 20 年 5 月～平成 28 年 2 月　京丹後市議会議員
平成 26 年 5 月～平成 28 年 2 月　京丹後市議会議長

会場 アグリセンター大宮
京都府京丹後市大宮町口大野228-1　P 有り

お問合せ
福知山公立大学　北近畿地域連携センター
0773-24-7151　〒620-0886 京都府福知山市字堀 3370
FAX.0773-24-7170　mail:regional@fukuchiyama.ac.jp

■共催／福知山公立大学・京丹後市・京都府北部地域連携都市圏推進協議会
■後援／京都府

www.fukuchiyama.ac.jp　福知山公立大学　The University of Fukuchiyama

開学記念連続講演会（京丹後市）

地域資源は足元に埋まっている

日時：平成２８年１２月２５日

場所：アグリセンター大宮

講　　演（要約）

１．疲弊した農村集落

○高野氏　　御紹介いただきました、高野といいます。

私は、今年３月、定年退職しましたが、１０年程前、富山県との県境にある石川県羽咋市神子原町という過疎限界集落を何とかしなさいと命じられて、わずか６０万円余の予算で村起こしに取り組んだんです。村は、昭和４０年代初めには１，０００人超でしたが、私が命令を受けたときには人口は半減。なぜ山の農村集落が疲弊するのか。原因は簡単、お金にならないんです。当時、サラリーマンの年収は、４３５万円ぐらい。この村の収入はわずか１世帯８７万円。田畑を守られなくなった人達は、６０キロほど離れた金沢へ出ていくんです。残るのはお年寄り。夫婦の一方が亡くなると、息子や娘が迎えに来る。この循環です。平成元年には小学校もなくなった。神子原地区の一番奥、菅池では、１８年間子どもが生まれていない。これが続いていたんです。

農村集落の最大の欠点は、自分で作ったものに希望小売価格つけられないことです。米価も毎年下がる。これを離脱するには、村でとれる農作物を全て自らが希望小売価格で売ればいい。農協に出していたのもやめることです。私は農協の西村組合長のところに相談に行ったんです。

高野氏「組合長、農協って最近変わってますよね。」

西村組合長「若い職員は片仮名でジェイエイと呼ぶよ。」

高野氏「いや、そうじゃなくて、農が狂うと書いて農狂と言いませんか。」

西村組合長「ワレ、俺に喧嘩売りにきたのか。」

高野氏「いや、喧嘩じゃなくて現実を見てもらいたいんです。神子原で農業してたら８７万、農協の職員になったら途端に５００万、６００万です。私だったら農業捨てて農協の職員になります。米価も毎年下がってますよね。皆さんの給料も一緒になって下がるんですか。」

西村組合長はカンカンで、「こんな失礼な職員は二度と農協によこすな」と市長室に電話され、私は市長からこっぴどく怒られました。もっとも、この西村組合長、２年後には私の最大の味方になっていただいたんですが。

一方、村の人達には、生産から流通・加工・販売まで自分達でやり、自分達作ったものに希望小売価格をつけて売りましょう、そのための会社をつくりましょうと呼びかけ、説明会を開きましたが、賛成したのは、１６９世帯中３世帯だけ。経験もありませんから失敗の連続でした。でも、成功するまで失敗すればいいという気持ちで頑張りました。

結論から先に言います。思った以上に年月はかかりましたけども、限界集落率５４％を何とか下げることができました。１人の月収が１５万円、夫婦で３０万円を超えて、読売新聞の北陸版に、月収が年金より多くなったと特集されました。平成２１年の段階で、地区の直売所での生産物や加工品の売り上げが、年間８，０００万円、今、１億円を超えていまます。Ｕターン組が８名います。他県からの移住者が１３家族３９名暮らしておいでです。岐阜県からの移住者で、農家カフェ・レストランをしている夫婦に赤ちゃんが生まれました。この地区では１８年ぶりの赤ちゃん誕生です。

過疎の村は、がりがりになった手のようなもの。栄養が乏しいから動かなくなり痩せていく。痛くてもいいからリハビリ運動をしようと思いました。痩せた細胞、つまり過疎の村に住んでる人達に直接栄養を取り込むために、アメリカ中央情報局が１９５０年代に作ったゲリラ戦略を参考に、私、３つの戦略、つまりメディア戦略、ブランド化の戦略、交流戦略を作りました。

２．きっかけはローマ法王への手紙

地元で採れる品質の高い無名の農作物をブランド化するためにどうしたか。まず、宮内庁にお米の売り込みに出向きました。米の国、アメリカでも食べてもらおうとアメリカ大統領にも直送しました。これらはうまくいかなかったが、ローマ法王に手紙を出したのがきっかけで、東京のバチカン大使館が、私たちが持参した４５キロのお米をローマ法王への献上品として送り届けてくれたんです。それが報道されると、早速デパートから「ローマ法王に送ったお米ないの」と電話が入りました。向こうが頭を下げてきたら値段はこちらの言いなりです。

オーナー制度をやったときは、外国のメディアを活用しました。最初、国内には一切報道をせず、ＡＰやＡＦＰ、ロイターなどで、しつこくやったんです。イギリスのガーディアンという新聞も取り上げ、メイソンさんという夫妻がオーナーになると手を挙げてくれました。日本人は、身近な人のやることは過小評価するけれど、外国人がというと、いきなり手のひらを返すんです。おかしかったのは、岐阜県の農家まで動いてきちゃったんです。オーナー費用は、玄米４０キロで３万円。つまり、農家は、１等米、２等米を問わず玄米４０キロを渡すだけで、３万円いただけるんです。６０キロの１等米の玄米を農協に出しても１万３，０００円しかもらえなかった当時にですよ。

空き家と農地をセットにした都市住民の移住対策でも、試験制度にして、この人なら来てもらいたいという人を村の人が審査して選ぶんです。「お願いですからうちの村に来てください」、「お金あげるから来てください」では長続きしません。村の人が必要なのは、お客さんではなくて、一緒になって草刈り作業や、村祭りをやってくれる人なんです。大学生が来て泊まれる「烏帽子親農家制度」というのを始めたら、お酒が強い女子大生が来たりして、村が賑やかになりました。

今、農薬も肥料も除草剤も使わない農法で全ての農作物を作ろうということをやり出しました。指導してるのは農協ですから、敵じゃなくて今や最大の味方なんです。

私が村おこしのにために予算要求した６０万円の中身は、３回の東京の往復の旅費とバスの借り上げ費用だけです。

私の話は、これからが面白くなるとこですけど、時間が過ぎました。

御清聴、ありがとうございました。

（以上）

講演会 講師 高野 誠鮮 氏

会場の様子

開学記念連続講演会（京丹後市）

地域資源は足元に埋まっている

日時：平成２８年１２月２５日

場所：アグリセンター大宮

鼎　　談（要約）

○平野教授　　京丹後市の三崎市長、高野様、そして私とで話を進めさせていただきます。まず、京丹後市の魅力について三崎市長からお話をお願いします。

１．京丹後市の魅力

○三崎市長　　京丹後市は、人口５万５，０００人、高齢化率は３５．３％です。２０２０年東京オリンピック・パラリンピックのカヌー競技のホストタウンにも指定されており、日本海側には、丹後松島や琴引浜など景勝地があり、景観に恵まれています。食では、間人ガニや久美浜湾のカキ、ジビエ、それに丹後産コシヒカリをはじめ、京野菜、メロン、梨、ブドウなど海山の幸が豊富です。日本酒の地酒のメーカーが５蔵もあります。また、長寿のまちとしても全国的にトップクラスで、ギネスで認定登録をされた１１６歳の方を筆頭に、平成２８年１１月１日現在で１００歳以上の高齢者が７５人おられます。４０余りの泉源があり、旅館・民宿が約２００軒、市民や観光客で賑わいをいただいています。日本海最大級の前方後円墳が２基存在しており、古い歴史のまちでもあります。農業、漁業のお祭りも各地で盛んに催されております。

２．地域意識を変えるために必要なこと

○平野教授　　高野さんの大変面白いお話について、市長の御感想を伺います。

○三崎市長　　行政には頼らないことが、地域の意識を変えていく根本だとお聞きしました。それについて、参考になる御意見があればお聞かせいただきたい。

○高野氏　　私、神子原の奥にある菅池というところは、すごいなと思いました。なぜかというと、例えば、雪が降ると平野部では「うちの前に雪が積もったから早く除雪しろ」と、すぐ役所にクレームが来るんです。でも、菅池では、自分達でさっさと除雪します。県道の両脇の草刈りも集落の人が出てきて、自分達でするんです。「県庁から補助金もらってるんですか。」と聞いたら、「何をばかなことを言うんだ。」って怒られたんです。「俺達のために、こんな県道を造ってくれたんだから、俺達がこの道路を管理するんだ。」と言って、集落全体でやってるんです。補助金や支援がないと何もしないというのは、私は異常だと思っています。

３．地域資源は足元に埋まっている

○平野教授　　先ほどの市長のお話について、高野様の御感想を聞かせてください。

○高野氏　　京丹後ってものすごくいい地域資源で溢れ返ってる場所なんですね。あとは、そこをどう生かしていくか、どう上手く活用していくかだと思います。

○平野教授　　私も京丹後は資源が豊かだと思いました。私は、国内外の各地を取材しておりますが、資源に恵まれなくても工夫しているところも多々見てきました。その一例が、中国内陸部の成都郊外の５つの金の花という集落です。ここは土壌が酸性で農作物もできず非常に貧しいところでしたが、酸性の土壌でも花だけは育つ。ここに着眼した３０代の女性村長さんが、アメリカの企業を呼び込んで、土地を貸して花を作らせました。そして、村長さんは、企業から得た土地使用料で、農家のおばあさんとかおじいさんをビジネススクールに行かせます。経営を勉強して村へ帰ってきたおばあさんやおじいさんが、アメリカの企業が作った花畑を見せる観光ツアーというのを企画し、それが観光ビジネスに発展して村が豊かになったという例です。こういうケースは他にもたくさん見聞しました。

○高野氏　　私もそういう例は見聞しました。知恵さえあれば、やりたいものはほとんど解決していくんじゃないかなと楽観的に構考えています。

４．福知山公立大学に望むこと

○平野教授　　最後に、４月にスタートした私どもの大学に望むことなどありましたら一言お願いします。

○高野氏　　私、今年から東京大学でもちょっと教えることになりましたが、不思議だなと思ったことは、真っ先に私にぶつけられた質問が、「どうしたら嫌われない公務員になれるんですか」だったことです。嫌われることを覚悟していないんです。正しいことをやろうとすれば嫌われることもあるんです。でも、その覚悟がない。大学では、「知」、つまり学ぶだけでなく、「識」をつくってほしいんです。識というのは五体を使って動いていくことなんです。例えばスノーボードの乗り方を教えるだけじゃなくて、本当にスノーボードに乗せてほしい。福知山公立大学の卒業生達は、社会ですぐ実践できるというくらいまでスキルアップしてほしいと思うんです。そうすると他の大学との差異ができます。

○三崎市長　　北近畿で本格的な４年制大学ということで期待しております。地域をフィールドとして地域のことをよく知っていただいて、この地にまた帰ってきていただく。そのことが我々が福知山公立大学に非常に期待をしているところでございまして、できるだけの協力をさせていただきたいと思います。常に連携をしながらそれぞれの町の事情に応じた教育、そして先ほど高野先生が仰いました「識」の部分を我々のところで担わせていただきたいと思っております。

○平野教授　　ありがとうございました。私ども、そんな立派な校舎もございませんし、本当に日本一小さいぐらいの大学なんですが、人の力で立ち上がっていきたいと思っておりますので、今後とも御支援、御鞭撻、よろしくお願いいたします。

（以上）

鼎談の様子

鼎談（左から高野 誠鮮 氏、三崎 政直 京丹後市長）

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 福知山市
アンケート集計結果

平成 28 年 9 月 10 日（土）14：30〜16：20
市民交流プラザふくちやま３F『市民交流スペース』

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 119 人		
回答者数	109 人		
性別	男性： 87 人	女性：13 人	回答なし・不明：9 人
回収率	92%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
3	0	4	9	２７	２３	１８	9	0

※回答なし・不明：１６人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	福知山市の広報で（広報誌、ライン等）	その他
9	３３	３９	６３	２０

※回答なし・不明：４人

〈具体的に〉

・フェイスブック
・ポスター
・回覧
・自治会

【Q3】「地方創生時代における地方公立大学の役割」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
６２	３７	7	0	0

※回答なし・不明：３人

〈感想〉

・福知山公立大学の設立理念は正しかったと確認できた。
・大学が福知山、北近畿。日本各地方のために役立つ場となってほしい。
・大学の存在意義など初めて聞いた話で、よく分かり参考になった。
・片山氏の具体案と国との運営をどう結び付けるかという案がほしかった。
・地域で考える、そのとおりであると思った。

【Q4】「福知山公立大学開学記念鼎談」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
４７	４４	１０	0	0

※回答なし・不明：８人

<具体的に>

・大学の役に立てることがないか、自分も考えていきたい。
・地域でのフィールドワークの意義がだいぶ分かった。
・短い時間であったが、内容のある鼎談であった。
・市、大学の連携の必要性が認識されたのではないと思う。
・まちかどキャンパス、議会より大学教員に研究費を出すことは良いアイデアだと思った。

【Q5】福知山公立大学に期待すること

・市民から大学で研究してほしいという案件が多く出ることを期待している。
・北近畿の活性化の目玉になること。
・まちづくりの拠点となることを期待している。
・北近畿全域に研究成果等の発信をしてほしい。

【Q6】その他（ご意見等）

・人口からみて公立大学の設立は無理があると思っていたので、教職員が自覚してほしい。
・今回のようなもっと時間を取って、市民に教員の紹介をしてはどうか。
・福知山から北近畿地域の関係諸団体との交流。
・高齢者対象の講座開催を希望する。
・特徴、魅力がない町と言われるが、大学のある町として魅力発信をしてほしい。

福知山公立大学 井口 和起 学長 あいさつ

大学紹介 江上 直樹 助教

北近畿地域連携センターを組織
・地域から大学への相談窓口
・地域との連携事業の推進
・大学構内に地域の皆様が利用できる「交流スペース」等の設置

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 与謝野町
アンケート集計結果

平成 28 年 10 月 15 日（土）13：30〜16：00
野田川わーくぱる

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 102 人		
回答者数	84 人		
性別	男性： 65 人	女性：13 人	回答なし・不明：6 人
回収率	82%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
0	7	8	１７	２４	１４	3	2	0

※回答なし・不明：９人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	与謝野町の広報で（広報誌、ライン等）	その他
2	3	１１	５４	１３

※回答なし・不明：６人

〈具体的に〉

・フェイスブック
・チラシ
・与謝野町リベラルアーツ

【Q3】「デザインマネジメントによるまちづくり〜みえるまちをつくる〜」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
４５	３１	6	1	0

※回答なし・不明：１人

〈感想〉

・一人一人の意識を変えるため、協力できる機会、それを知る機会を広げたい。
・与謝野町のデザインの中に福知山公立大学のスキルが注入されれば更に良くなると思う。
・「美術・芸術」と「デザイン」の違いが明確に説明されて、理解が進んだ。
・町民の意識を変えることで素晴らしい町になると思う。
・まちの原点を見つめ直す機会になった。

【Q4】「福知山公立大学開学記念鼎談」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
３３	３３	１１	1	0

※回答なし・不明：６人

<具体的に>

・覚えるから考える教育に変わっており、与謝野町でその教育が始まっていることは感動した。考える町の本質が少しわかった。
・今後の認識共有に大きな意義があった。
・楽しく聞けた。やっと待ち望んだ町ができると感じた。
・町長を巻き込んでのこういう企画はいいと思う。
・自分自身の学習の場となった。

【Q5】福知山公立大学に期待すること

・企業とのマッチング事業
・小規模多機能のまちづくりのコーディネート各地域で開催してほしい。
・北近畿地域が強い競争力を持つ地域になるよう、協力してほしい。
・自分の生まれ育った町の良さを知る学習をして、自らが関心を持ちみえる町づくりをする人になる人材育成を期待する。
・地域と近い関係であり続けてほしい。

【Q6】その他（ご意見等）

・地域の若者が留まるだけでなく、他地域からの若者が一人でも多く集う存在になってほしい。
・福知山公立大学がますます発展していくことを期待している。
・たいへん良い企画だと思った。
・地域経営+何かスキル（IT であったり、語学であったり）、専門性が必要だと思う。
・田子氏に福知山公立大学で市民も参加できる講義を行ってほしい。

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 宮津市
アンケート集計結果

平成 28 年 10 月 22 日（土）18：00～20：30
ホテル北野屋

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 56 人		
回答者数	49 人		
性別	男性： 34 人	女性：15 人	回答なし・不明：0 人
回収率	88％		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
４人	３人	３人	１２人	１４人	７人	２人	０人	０人

※回答なし・不明：４人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	宮津市の広報で（広報誌、ライン等）	その他
１人	２人	１４人	１６人	１６人

※回答なし・不明：４人

〈その他内訳〉

・フェイスブック
・チラシ
・ポスター
・第２回の講演会で

【Q3】基調講演「神山発！日本の田舎をステキに変える～人が人を呼ぶ地域資源の活かし方～」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
３７人	１２人	０人	０人	０人

※回答なし・不明：０人

〈感想〉

・自分自身の将来像に大きな影響をいただいた。
・空き家活用など、宮津でできそうなことが多くあった。
・移住政策を進めていくことは、地域活性化にとって重要だと思った。
・今まで自分にはなかった地域活性化の発送が聞けて、非常に勉強になった。
・アイデアキラーにならないように気をつけようと思った。

【Q4】「パネルディスカッション」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
２６人	１７人	１人	０人	０人

※回答なし・不明：５人

<感想>

・地域で実際に店舗経営されている方の生の声が聞けて良かった。
・「民」が動かす具体例が参考になった。
・地域資源の魅力が宮津にはたくさんあるので、どんどん活用していけばよいと思う。
・意外に知らない活動があったり、知っていても内容をよく知らない活動を、深く知ることができて、良かった。質問時間がほしかった。
・宮津を愛するメンバーがイノベーションを起こすというフレーズに感動した。

【Q5】「ワークショップ」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
２１人	１３人	９人	１人	０人

※回答なし・不明：５人

<感想>

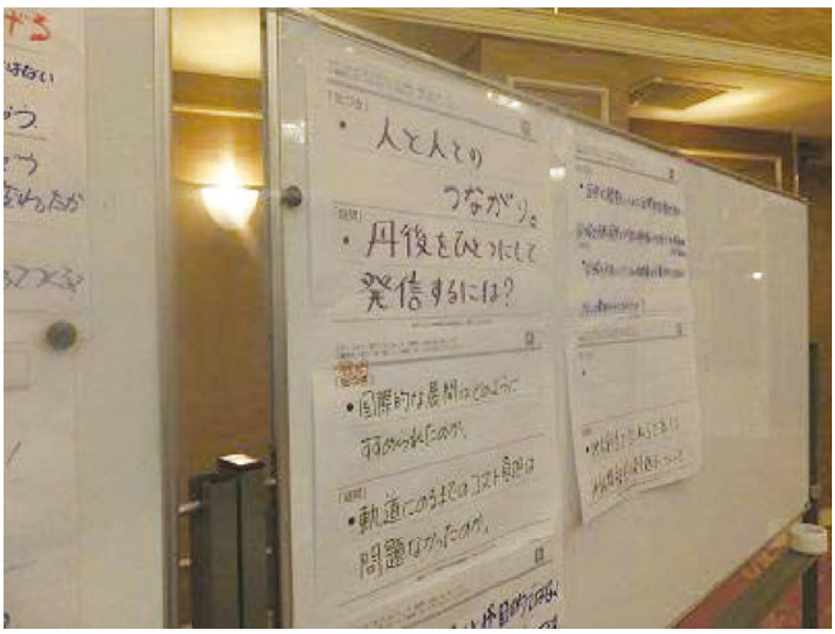
・自身の考えを整理するよい機会となった。
・自分では思いつかないような意見を聞くことができて良かった。
・他の人と交流して意見を取り入れていくことは大切だと思った。
・自分の考えを言葉にすることは難しかったが、考えを整理し周りの意見も聞けて、有意義であった。
・普段の中では宮津のことに関して話し合うことが少ないので、とても良い機会になった。

【Q6】福知山公立大学に期待することや、その他

・「ひと」「まち」が大きく変わることに必要なエネルギー創出に力を貸してほしい。
・進路にも生かしていきたいと思う。
・10 年後に子どもを入学させたくなるような実績をアピールしてほしい。
・学長の話が良かった。親近感がわいた。
・宮津にも学生にもっと来てほしい。

来場者でグループワーク

グループワークの成果物



福知山公立大学開学記念連続講演会 in 伊根町
アンケート集計結果

平成 28 年 11 月 5 日（土）13：30～16：00
伊根町コミュニティセンターほっと館（ホール）

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 28 人		
回答者数	27 人		
性別	男性： 24 人	女性：2 人	回答なし・不明：1 人
回収率	96%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
０人	１人	１人	６人	６人	１０人	０人	０人	０人

※回答なし・不明：３人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	伊根町の広報で（広報誌、ライン等）	その他
１人	３人	５人	９人	９人

※回答なし・不明：１人

〈その他内訳〉

・職場
・与謝野町商工会の広報
・チラシ
・ロータリークラブの紹介

【Q3】基調講演「東北が取り組んでいる新しい農林水産業～「東の食の会」の事例紹介～」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
２１人	６人	０人	０人	０人

※回答なし・不明：０人

〈感想〉

・復旧からのプロセスが非常に参考になった。
・一次産業の新たな発展のイメージが理解できた。
・プロフェッショナルが本気でぶつかり合い、連携することが必要だと思った。
・マーケテイングもよく分からないが、「おもしろい」「かっこいい」方向に行くのが正解なのだと思った。
・ブランド化とはイメージさせることが大事ということが印象深かった。

【Q4】「パネルディスカッション」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
９人	８人	４人	０人	０人

※回答なし・不明：６人

<感想>

・いろいろな気づきが得られた。これからに生かしていきたい。

・伊根町の現状等について、知ることができた。

・伊根町の直面する課題、特に人材育成・後継者不足、補助金依存等どこの地域でも抱えている。問題をいかに解決していくか、地域や業種の壁を超えて取り組んでいく覚悟が必要である。

・伊根町にもいいものがあると思うので、あと一歩で何かが起きるのかなと思う。

・人員確保は収入確保が基本と考える。

【Q5】福知山公立大学に期待することや、その他

・地域の真実な現実を受け止めて、地域の人とともに行動する中で、「左脳」「右脳」「心」で地域の課題解決に取組み、人材を育成していってほしい。

・気楽に立ち寄れる敷居の低い大学であってほしい。

・地元にノウハウのない6次産業化や売り方の指導などを行ってほしい。

・地域とともに頑張ってほしい。

パネルディスカッションの様子

会場の様子

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 綾部市
アンケート集計結果

平成 28 年 11 月 26 日（土）13：30～16：00
Ｉ・Ｔビル多目的ホール

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 98 人		
回答者数	97 人		
性別	男性： 68 人	女性：26 人	回答なし・不明：3 人
回収率	99%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
０人	３人	５人	２９人	２６人	１９人	２人	０人	０人

※回答なし・不明：１３人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	綾部市の広報で（広報誌、ライン等）	その他
３人	１５人	１７人	３１人	３９人

※回答なし・不明：４人

〈その他内訳〉

・フェイスブック
・前回の講演会で
・チラシ
・職場

【Q3】基調講演「田園回帰の時代～未来の希望を求めて～」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
５７人	３７人	２人	０人	０人

※回答なし・不明：１人

〈感想〉

・身近な問題を数字で明確に表現してもらうと、改めて問題意識を持ちことができた。
・農山村のあり方を再認識した。
・時間が短かった。地域づくりについても聞きたかった。
・農村の良さを若い人に広げる必要があり、高校生にＵターンを考える運動が必要である。
・前向きにもがいている地域は、若者が集まってくるという言葉に勇気をもらった。
・とても分かりやすい。

【Q4】「パネルディスカッション」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
４５人	３４人	２人	２人	０人

※回答なし・不明：１４人

<感想>

・「人が人を呼ぶ」とか　「人を巻き込む」という感覚を若年層に伝えてほしい。
・パネリストの移住のきっかけや今の暮らしについての話は、参考になった。
・綾部に移り、人生の変えた人の話が聞けて良かった。
・移住のよい面のみでなく、苦労した点や嫌な面も聞きたかった。
・パネリストの方々が生き生きとしていて、自分も何かやりたいと思うきっかけになった。
・素晴らしい内容だった。可能性を感じた。

【Q5】福知山公立大学に期待することや、その他

・学生を広く社会勉強させる。地域の人や高齢者とも交流してほしい。
・なくてはならない大学として、他地域からも学生が集まる大学になることを期待している。
・大学の存在は地域の底力と、心強くうれしい。
・京都北部地域にこんな未来に期待できる大学があると気づくきっかけになった。
・よい講演会だった。今後も北部地域活性化のため市民向けの講演会を開催してほしい。
・全国から集まっている学生たちと話をする機会があればいいと思う。

コーディネーター 塩見 直紀 准教授

会場の様子

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 舞鶴市
アンケート集計結果

平成 28 年 12 月 11 日（日）10：00～12：00
舞鶴商工観光センター

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 100 人		
回答者数	90 人		
性別	男性： 75 人	女性：12 人	回答なし・不明：3 人
回収率	90%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
２人	６人	２人	１５人	３６人	１４人	３人	１人	０人

※回答なし・不明：１１人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	舞鶴市の広報で（広報誌、ライン等）	その他
２人	２人	１３人	３７人	３５人

※回答なし・不明：６人

〈その他内訳〉

・チラシ
・職場
・福知山市立図書館
・関西クルーズ振興協議会

【Q3】基調講演「クルーズ観光新時代における京都舞鶴港の可能性」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
４１人	３７人	９人	１人	０人

※回答なし・不明：２人

〈感想〉

・クルーズの概要、今後の方向性等理解できた。
・とても分かりやすい。クルーズ全体の話と舞鶴の可能性などとても有意義だった。
・グローバルな観点からの市場説明もあり、クルーズの全体感がつかめてとても有益であった。
京都舞鶴港に関しては、船社としての問題提起もあればなおよかった。
・もう少し基本的な船社が求める寄港地の条件や方向性を、舞鶴港を対象として示してほしかった。
・クルーズを巡る状況を分かりやすく説明され、舞鶴港の位置づけがよく理解できた。

【Q4】「パネルディスカッション」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
４２人	３５人	７人	１人	０人

※回答なし・不明：５人

<感想>

・パネリストの糸川氏の話で、課題がよく分かった。
・クルーズ観光が発展していく可能性を感じた。
・舞鶴の良さをどう広めるか、大学との連携も大切だ。
・クルーズ観光が身近に感じた。クルーズ観光がしてみたくなった。
・もう少し時間がほしかった。
・受け入れ側の課題も解決する必要性を認識できた。
・コスタ社の戦略や行政機関の対応などがよく理解できた。
・クルーズ会社、地元関係機関、関係者等よく情報共有してタイアップしていく必要を感じた。

【Q5】福知山公立大学に期待することや、その他

・地域の振興につながるような取り組みを期待している。
・地域との連携を深めていることは、すばらしいと思う。
・ユニークな教授陣を揃えて、ローカルに密着した活動を評価する。
・福知山公立大学が北近畿・京都府北部に根付いた大学になることを期待する。
・このような講演会は良い企画だと思う。継続してほしい。
・地域課題に対応する研究をして、広く情報発信してほしい。

コーディネーター 篠原 正人 教授

パネルディスカッションの様子

福知山公立大学開学記念連続講演会 in 京丹後市
アンケート集計結果

平成 28 年 12 月 25 日（日）10：00～12：00
アグリセンター大宮

【アンケート実施概要】

参加者数	芳名記帳者数 105 人		
回答者数	98 人		
性別	男性： 74 人	女性：20 人	回答なし・不明：4 人
回収率	93%		

【Q1】年齢は？

10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	90 代以上
１人	４人	１０人	１４人	２５人	２１人	９人	２人	０人

※回答なし・不明：１２人

【Q2】この講演会は何でお知りになりましたか？（複数回答あり）

大学のホームページで	新聞で	知人・友人から	舞鶴市の広報で（広報誌、ライン等）	その他
８人	５人	２６人	６人	４９人

※回答なし・不明：６人

〈その他内訳〉

・チラシ
・前回の講演会で
・職場
・高野さんのフェイスブック

【Q3】基調講演「地域資源は足元に埋まっている」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
６８人	２７人	０人	１人	０人

※回答なし・不明：２人

〈感想〉

・話がとてもおもしろく、分かりやすくて良かった。
・何に着目するか、大変参考になった。
・非常に目から鱗の話が多く、もっと聞きたかった。
・発想が素晴らしい。行動することがいかに大切か、改めて感じた。
・公務員に聞いてほしい内容であった。再度、企画してほしい。
・元気・行動・失敗が必要だと気づいた。
・講演時間が短かった。
・資料配布があればよかった。

【Q4】「パネルディスカッション」

大変良かった	良かった	普　通	あまり良くなかった	良くなかった
２１人	３８人	２３人	５人	０人

※回答なし・不明：１１人

<感想>

・他県の成功事例が非常に参考になった。
・京丹後市でも、元々ある地域の特徴や資源を活用して発展できる可能性を感じた。
・智恵と戦略、思いつく人とそうでない人、誰かがやってくれることと自分でやること等、考えさせられた。
・資源の見せ方が大事だと思った。参考になった。
・疲れることは長続きしない、具体的な利益・成果につなげるなど、参考になった。

【Q5】福知山公立大学に期待することや、その他

・北近畿北部地域の産業（農業関連）発展に尽くしてほしい。
・このような講演会は良い企画だと思う。継続してほしい。
・地域の課題をともに解決できるような協働創りを期待する。
・地元高校や中学との連携、地域との連携が地域の創造になる。
・他市町村との連携のかけはしとなってほしい。

大学紹介 富野 暉一郎 副学長

会場の様子

福知山公立大学　北近畿地域連携センター
平成 28 年度　「福知山公立大学開学記念連続講演会」報告書
2017 年 3 月　発行

発行所　福知山公立大学北近畿地域連携センター
〒620-0886　京都府福知山市字堀 3770
TEL:0773-24-7151
E-mail: kita-re@fukuchiyama.ac.jp

印刷所　谷印刷所
〒620-0051　福知山市昭和新町 133 番地
TEL:0773-22-1050　FAX:0773-22-1090